本日ハ主トシテ十一月五日御前會議以後ニ於ケル日米交渉ノ經過ニ付御説明申上ケマスカ其以前卽チ十月末ニ於ケル交渉ノ狀況ヲ極メテ簡單ニ要約致シマスルト米側ハ國際關係ノ基礎トシテ

一、一切ノ國家ノ領土保全及主權尊重

二、他國ノ內政不干涉

三、通商上ノ無差別待遇

四、平和手段ニ依ルノ外太平洋ニ於ケル現狀ノ不變更

ノ四原則ヲ堅持シ之カ適用ヲ强要セムトシ、尙帝國ノ平和的意圖ニ關シ疑惑ヲ表示シ、支那ニ於ケル駐兵ニ異議ヲ唱ヘ、通商上ノ無差別原則ヲ無條件ニ支那ニ適用スヘシト主張シ、又三國條約問題ニ

付テモ之ヲ事實上死文タラシメムコトヲ求メ、交渉ハ之カ爲難關ニ逢著シ遂ニ停頓セル次第テアツタノテアリマス。

斯クノ如ク兩國ノ見解對立ヲ來シタル所以ノモノハ、米國カ國際關係處理ニ付其ノ傳統的ニ堅持スル原則的理念ヲ强硬ニ固執シ、東亞ノ實情ヲ顧ミス之ヲ其儘支那其他ニ適用センコトヲ主張シ居ルコトニ起因スルモノテ、米側ニシテ右ノ態度ヲ改善セサルニ於テハ、本交渉ノ妥結ハ極メテ困難ナリト認メタノテアリマス。

然シ乍ラ現內閣トシマシテモ公正ナル基礎ニ於ケル日米國交調整ヲ計ルヲ妥當ト認メ、帝國トシテ能フ限リノ讓步ヲ試ミ以テ日米衝突回避ニ最後ノ努力ヲ傾ケルコトニ致シタノテアリマス。卽チ右ノ見地ヨリ當時交渉ノ主要難點タリシ三國條約ニ基ク自衞權ノ解釋、

REEL No. A-0299
0514
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

過酷無差別原則竝ニ支那及佛印ヨリノ撤兵ノ三問題ニ付從來ノ帝國提案即チ九月二十五日案ヲ緩和シ、(一)三國條約ニ基ク自衛權問題ニ付テハ米側カ自衛權ノ觀念ヲ不當ニ擴大セサルコトヲ言明セシメ其場合我方ニ於テモ同樣ノ言明ヲナスコトトシ、(二)無差別原則ニ付テハ右原則カ全世界ニ適用セラルルモノナルニ於テハ右カ支那ニモ適用セラルルコトニ異議ナキコトトシ、(三)撤兵問題ニ付テハ支那事變ノ為支那ニ派遣セラレタル日本軍隊ハ北支駐屯ノ一定地域及海南島ニ關シテハ日支間平和成立後所要期間駐屯スヘク、爾餘ノ軍隊ハ平和成立ト同時ニ日支間協定ニ從ヒ撤去ヲ開始シ、治安確立ト共ニ二年以内ニ撤兵ヲ完了スヘク、又佛印ニ付テハ領土主權ノ尊重ヲ約シ佛印ニ派遣セラレ居ル軍隊ハ支那事變解決スルカ又ハ公正ナル極東

平和確立スルニ於テハ直ニ之ヲ撤去スヘシト修正スルコトトシ、右ハ十一月五日ノ御前會議ニ於テ御決定ヲ得マシタ次第デアリマス。

政府ハ右ノ御決定ノ次第ニ基キ野村大使ニ對シ事態急迫セル此際彼從ニ頑セル日米國交ノ局面ヲ轉換スル為ニハ本案ニ依リ急速妥結スルノ外ナク、帝國ハ難キヲ忍ヒテ最大限ノ讓歩ヲ敢テシタルモノナルニ鑑ミ、米國側モ猛省シテ太平洋平和ノ為我方ト協調センコトヲ切望スル旨甲入方訓令致シマシタ。爾後交渉ハ華府ニ於テ行ハレタルカ東京ニ於テモ右交渉ヲ促進スル意味ニ於テ本大臣モ屢々在京米英大使ト折衝ヲ遂ケマシタ。而シテ野村大使ハ七日「ハル」國務長官トノ會見ヲ手初メトシ、十日「ローズヴェルト」大統領十二日及十五日「ハル」長官ト會談ヲ重ネ、鋭意交渉進捗ニ努力スル所カ

REEL No. A-0299

0516

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

アリマシタ。此間政府ハ時局ノ重大ナルニ鑑ミ外交上十全ノ努力ヲ試ミンカ為、五日來柏大使ヲ米國ニ急派スルコトトシ、同大使ハ十五日華府到着、十七日ヨリ對村大使ヲ援助シテ交渉ニ參加致シマシタ。交渉ハ當時既ニ師ニシテ米側ハ七日以來我方ニ對シ幾多ノ點ニ付質疑ヲ提出シ帝國ノ眞意ヲ探ラントスル様子ヲ示シマシタ。米側ハ夙ニ所謂「ヒツトラー」王義ノ打倒ヲ標榜シ、帝國ニ對シ武力政策ノ放棄ヲ要求シテ居リマシタカ、三國條約トノ關係ニ於テ帝國ノ政策ニ對シ依然疑惑ヲ抱キ居リシモノ、如ク、今回モ帝國ノ平和的意圖ニ付前述ノ八月二十八日帝國政府ノ平和的意圖ノ聲明ニ付再確認ヲ要求スルト共ニ、日米協定成立セハ帝國ハ三國條約ヲ保持スルノ要ナカルヘク右ハ消滅若ハ死文トナルコトヲ希望スル旨反覆力説

致シマシタ。通商無差別原則ニ付テハ我方ノ提案セル「全世界ニ適用セラルルコト」云々ノ條件除去ヲ希望シ、米國カ由來自由通商回復ノ為努力シ來レル次第ヲ強調致シマシタ。同時ニ米側ハ別ニ「經濟政策ニ關スル共同宣言案」ナルモノヲ提議越シ、兩國協力シテ全世界ニ通商自由ノ回復ヲ計ルコト、日米通商協定ノ締結ニ依リ正常通商關係ヲ回復スルコトソノ外支那ニ於テハ經濟財政通貨ニ關スル完全ナル統制權ヲ支那政府ニ回收スヘキコト、列國協同ノ下ニ支那ノ經濟共同開發ヲ行フコト等ヲ提案致シマシタ。尚又支那ヨリノ撤兵問題ニ付テハ特ニ深ク之ヲ論議セス暫ク久ク至不確定期間ノ駐兵ニ對シ難色ヲ示スニ止マリマシタカ、帝國カ平和政策ヲ採ルニ於テハ米國ニ於テ日支直接交渉周旋ノ用意アル次第ヲ申出テマシタ。政府

REEL No. A-0299

0516

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ハ右ニ對シ八月二十八日ノ帝國ノ平和的意圖闡明ニ關シ米側カ確認ヲ希望スル點ハ九月二十五日附我提案中ニ包含セラレ居リ、從テ現内閣モ其趣旨ニ於テ之カ確認ニ異議ナキコト、又通商上ノ無差別原則ニ付條件ヲ附シタルハ我方ニ於テハ同原則カ全世界ニ一律ニ適用セラルルヲ希望シ、右希望ノ實現ニ願應シテ支那ニ對シテモ同原則ノ適用ヲ承認スルトノ意味合ナルコト、共同宣言案ニ付テハ右カ支那ノ現實ヲ無視シ殊ニ支那共同防衛ノ提案ハ支那國際管理ノ端緒トナルヲ以テ受諾シ難キコト、及米側ノ日支和平局促申入レニハ異議ナキ旨回答セシメタノテアリマス。來栖大使ハ此段階ニ於テ交渉ニ參劃セルモノテアリマシテ、對行來栖兩大使ハ十七日大統領ト十八日、二十日、二十一日、二十二日、二十六日ト引續キ「ハル」

長官ト會見ヲ重ネタノテアリマス。然ルニ十七、十八兩日ノ會見ニ於テハ大統領ハ日米平和ヲ希望スル旨ヲ述ヘ、支那問題ニ付テハ干渉モ斡旋モスル意圖ナク單ニ「紹介者」タラント欲スルモノナリト言ヒ、他方「ハル」長官ハ帝國カ獨逸ト提携シ居ル限リ日米交渉ハ至難ナルヲ以テ、先ツ此ノ根本的困難ヲ除去スル必要アリト縷々力説シ、双方論議ヲ盡セルモ難關ハ依然トシテ三國條約、無差別原則及支那問題ニ在ルコト明カトナリマシタノテ、二十日ニ至リ我方ハ從來交渉ノ基礎タリシ案文カ宣傳的色彩ニ滿チ居タルヲ簡略化シ、且意見容易ニ一致セサル無差別原則問題ヲ除去シ更ニ三國條約問題ハ先方ヨリノ提案ニ俟ツ趣旨ヲ以テ是又一應我提案ヨリ除去シ尚又支那問題ハ主トシテ之ヲ日支直接交渉ニ移スノ趣旨ヲ以テ米側ニ於

REEL No. A-0299

0516

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

テハ單ニ日支和平妨碍ヲ差控ヘシムルコトトスル新提案ヲ差出致サセマシタ。卽チ同案ノ內容ハ左ノ通リテアリマス。

一、日米兩國政府ハ孰レモ佛印以外ノ南東亞細亞及南太平洋地域ニ武力的進出ヲ行ハサルコトヲ確約ス

二、日米兩國政府ハ蘭領印度ニ於テ其ノ必要トスル物資ノ獲得カ保障セラルル樣相互ニ協力スルモノトス

三、日米兩國政府ハ相互ニ通商關係ヲ資產凍結前ノ狀態ニ復歸スヘシ米國政府ハ所要ノ石油ノ對日供給ヲ約ス

四、米國政府ハ日支兩國ノ和平ニ關スル努力ニ支障ヲ與フルカ如キ行動ニ出テサルヘシ

五、日本國政府ハ日支間和平成立スルカ又ハ太平洋地域ニ於ケル公正ナル平和確立スル上ハ現ニ佛領印度支那ニ派遣セラレ居ル日本軍ヲ撤退スヘキ旨ヲ約ス

日本國政府ハ本了解成立セハ現ニ南部佛領印度支那ニ駐屯中ノ日本軍ハ之ヲ北部佛領印度支那ニ移駐スルノ用意アルコトヲ聞明ス

右ニ對シ米側ハ帝國カ三國條約トノ關係ヲ明カニシ平和政策採用ヲ確言スルニ非サレハ援蔣行爲停止ハ困難ナリ、大統領ノ所謂「紹介者」タラントノ提案モ日本ノ平和政策採用ヲ前提トスルモノナル旨ヲ述ヘマシタカ、之ニ對シ我方ハ米側申出ノ趣旨ニ基キ大統領ノ紹介ニ依リ日支直接交渉開始セラルルニ於テハ、和平ノ周旋者タル米國カ依然援蔣行爲ヲ繼續シ、平和成立ヲ妨碍スルハ矛盾ナルヲ指摘シ米側ノ反省ヲ要望致シマシタ。然ルニ其後モ米側ハ日米兩國カ夫々東亞及西半球ニ於テ指導的立場ニ立ツニ異議ナク親善裡ニ太平洋協定ヲ結ヒ度シト述ヘ乍ラモ支那ニ付米國ハ蔣介石援助打切ヲ應諾セサルノミナラス三國條約ニ關スル從來ノ主張ヲ固執反覆シ、更ニ讓歩ノ色ヲ示サナカツタノテアリマス。

REEL No. A-0299
0518
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

此間米國政府ハ英濠蘭及重慶代表ト協議スル所アリ、二十二日「ハル」長官ハ右諸國ハ日本カ平和政策ヲ採ルコト明確トナラハ通商常態復歸ヲ實行シ得ヘキモ差當リ漸進的ニ之ヲ行フ意圖ノ如ク、又南部佛印ヨリノ撤兵ノミニテハ南太平洋方面ノ急迫セル情勢ヲ緩和スルニ足ラストナシ居レリト述ヘ、更ニ大統領ノ日支間「橋渡シ」ハ時機未タ熟セスト思考スル旨ヲ洩ラスニ至リマシタ。

然ルニ米國政府ハ其後モ右諸國代表ト協議ヲ重ネツツアツタノテアリマスカ、二十六日「ハル」長官ハ兩大使ニ對シ二十日ノ我新提案ニ付テハ愼重研究ヲ加ヘ關係國トモ協議セルモ異議作ラ同意シ難シト述ヘ、米側六月案ト我方九月案トノ調節案ナリト稱シテ第一所謂四原則（但シ第四項ハ紛爭防止ノ爲ノ國際協力及調停ニ變更セラ

ル）ノ確認ヲ求ムルト共ニ、第二別ニ兩國政府ノ採ルヘキ措置トシテ

一、日米兩國政府ハ英帝國、蘭、支、蘇、泰ト共ニ多邊的不可侵條約ノ締結ニ努ム

二、日米兩國政府ハ日、米、英、支、蘭、泰國政府トノ間ニ佛印ノ領土主權ヲ尊重シ佛印ノ領土主權カ脅威サルル場合必要ナル措置ニ關シ即時協議スヘキ協定ノ締結ニ努ム

右協定締約國ハ佛印ニ於ケル貿易及經濟關係ニ於テ特惠待遇ヲ排除シ平等ノ原則確保ニ努ム

三、日本政府ハ支那及佛印ヨリ一切ノ軍隊（陸、海、空及警察）ヲ撤收スヘシ

四、兩國政府ハ重慶政府ヲ除ク如何ナル政權ヲモ軍事的、政治的、經濟的ニ支持セス

五、兩國政府ハ支那ニ於ケル治外法權（租界及團匪議定書ニ基ク權利

REEL No. A-0299

0319

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ヲ含ム）ヲ拋棄シ他國ニモ同様ノ措置ヲ慫慂スヘシ

六、兩國政府ハ互惠的最惠國待遇及通商障壁低減ノ主義ニ基ク通商條約締結ヲ商議スヘシ（生絲ハ自由品目ニ据置ク）

七、兩國政府ハ相互ニ資産凍結令ヲ廢止ス

八、則、弗爲替安定ニ付協定シ兩國夫々半額宛資金ヲ供給ス

九、兩國政府ハ第三國ト締結シ居ル如何ナル協定モ本協定ノ根本目的即太平洋全地域ノ平和確保ニ矛盾スルカ如ク解釋セラレサルコトニ付同意ス

一〇、以上諸原則ヲ他國ニモ慫慂スルコト

等ノ各項ヲ包含セル案ヲ兩今交渉ノ基礎トシテ提案越シマシタ。右ニ付兩大使ハ其ノ不當ナルヲ指摘シ、強硬ナル態度ヲナシマシタカ「ハル」長官ハ譲歩ノ色ヲ示サナカツタ由テアリマス。越エテ二十七日兩大使カ更ニ大統領ト會見セル際ニハ大統領ハ今猶日米交渉ノ妥結ヲ希望スト述ヘ乍ラモ去ル七月本交渉進行中日本軍ノ南部佛印進駐ヲ見タル爲冷水ヲ浴セラレタルカ、最近ノ情報ニ依レハ俄々冷水ヲ浴セラルル懸念アルヤニ考ヘラルト云ヒ、暫定的方法ニ依リ局面打開ヲ計ルモ兩國ノ根本主義方針カ一致セサレハ一時的解決モ結局無效ト思フ旨ヲ述ヘタ趣テアリマス。

然ルニ右米側提案中ニハ通商問題（第六、七、八各項）乃至支那治外法權撤廢（第五項）等我方トシテ容認シ得ヘキ項目モ若干含マ

REEL No. A-0299

0520

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

レテ居リマスカ、支那佛印關係事項（第二、三項）國民政府否認（第四項）三國條約否認（第九項）及多邊的不可侵條約（第一項）等ハ何レモ帝國トシテ到底同意シ得サルモノニ屬シ本提案ハ米側從來ノ諸提案ニ比シ著シキ退歩ニシテ且半歳ヲ隔ユル交渉経緯ヲ全然無視セル不當ナルモノト認メサルヲ得ヌノテアリマス。

要之米國政府ハ終始其傳統的理念及原則ヲ固執シ東亞ノ現實ヲ没却シ而モ自ラハ容易ニ實行セサル諸原則ヲ帝國ニ強要セムトスルモノニシテ、我國カ屢々、枝多ノ譲歩ヲ爲セルニ拘ラス七箇月餘ニ亘ル今次交渉ヲ通シ當初ノ主張ヲ固持シテ一歩モ譲ラナカツタノテアリマス。

惟フニ米國ノ對日政策ハ終始一貫シテ我不動ノ國是タル東亞新秩

序建設ヲ妨碍セントスルニ在リ、今次米側回答ハ假ニ之ヲ受諾セン、カ帝國ノ國際的地位ハ滿洲事變以前ヨリモ更ニ低下シ、我カ存立モ亦危殆ニ陷ラサルヲ得ヌモノト認メラレルノテアリマス。即チ

一、將介石治下ノ中國ハ愈々英米依存ノ傾向ヲ增大シ帝國ハ、國民政府ニ對スル信義ヲ失シ日支友誼亦將來永ク毀損セラレ延テハ大陸ヨリ全面的ニ退却ヲ餘儀ナクセラレ其ノ結果滿洲國ノ地位モ必然動搖ヲ來スヘキ虞ヲ孕ムヘク期クノ如クニシテ我支加事變完遂ノ方途ハ根底ヨリ復没セラルヘク

二、英米ハ此等地域ノ指導者トシテ君臨スルニ至リ帝國ノ權威地ニ墜チテ安定勢力タル地位ヲ復滅シ東亞新秩序建設ニ臨スル我大業ハ中途ニシテ瓦解スルニ至ルヘク

REEL No. A-0299

0521

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

三、三國條約ハ一片ノ死文トナリテ帝國ハ信ヲ海外ニ失墜シ

四、新ニ蘇聯ヲモ加ヘ集團假構的組織ヲ以テ帝國ヲ控制セントスルハ、我北邊ノ憂患ヲ增大セシムルコトトナルヘク

五、通商無差別其ノ他ノ諸原則ノ如キハ其ノ誚フ所必スシモ弊除スヘキニ非スト雖モ之ヲ允ツ太平洋地域ニノミ適用セントスル企圖ハ結局英米ノ利己的政策遂行ノ方途ニ適キスシテ我方ニ於テハ重要物資ノ獲得ニ大ナル支障ヲ來スニ至ルヘク

要スルニ石提案ハ到底我方ニ於テハ容認シ難キモノテ本條ニ於テ其提案ヲ全然撤去スルニ於テハ格別石提案ヲ基礎トシテ此上交渉ヲ持續スルモ我カ主張ヲ充分ニ貫徹スルコトハ殆ト不可能ト云フノ外ナシト申サナケレハナリマセヌ。

（了）

REEL No. A-0299

0522

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

開戦ニ備ヘスル諸準備

新タテ政府ハ開戦ニ備スル諸般ノ準備ヲ進メツツ後テヨリ能率研究中ナリシ對米英開戦名目（御前前案ノ骨子）、開戦ニ際シ公表スヘキ政府聲明及詔勅放送案、等ヲ決定スルト共ニ對蘭印措置、和蘭ノ收奪振、滿洲國ヲシテ執ラシムヘキ措置、支那ニ於テ執ルヘキ措置等ヲ愈次確定シ五日ニハ日米交渉打切ニ關スル帝國政府ノ對米通牒案並ニ交渉經緯公表案モ決定ヲ見ルニ至リタルカ他方我伊トノ事態不穏和收極ニ關スル交渉モ亦極メテ順調ニ進捗シツツアリタリ

我伊トノ交渉

獨逸政府ノ態度ハ既（遡（編　　頁）ノ通ナルカ政府ハ三十日早朝不穏和協定案ヲ在獨大使並ニ在伊大使ニ打電シ右急遽締結方ヲ調命セリ

甲、調　　合

（日本標準規格B5）

一、本年四月前期内閣當時開始セラレタル日米交渉ハ帝國政府ノ誠立アル努力ニ不拘遂ニ決裂必至ノ事態ニ立至リタル處（交渉經緯要點別電ノ通リ）帝國トシテハ右事態ニ直面シ重大ナル決意ヲ必要トスルニ至レリ就テ（ハ）貴大使ハ大亜細亜「ヒトラー」總統及「リッベン」外相ニ面會セラレ右經過ノ要點ヲ内報セラルルト共ニ最近英米聯國カ挑發的態度ニ出テ其ノ兵力カ東亜ノ各地ニ出動ヲ繼續シ居ルニ對抗シ我方トシテモ兵力ノ出動ヲ餘儀ナクセシメラレ勢ノ赴ク所遂ニ武力衝突ヲ來シ我ト英米聯國トノ間ニ戦爭狀態ノ發生ヲ見ルニ至ルノ虞極メテ大ナルコトヲ内密通報セラレ且右發生ノ時期ハ意外ニ早ク來ルヤモ知レサル旨附言セラレタシ

（日本標準規格B5）

REEL No. A-0299

0523

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

三、帝國ト(米英)トノ間ニ戰爭發生ノ場合帝國トシテハ三國條約ノ關係ヨリモ獨伊ノ態度ノ如何ニ關シ米國ノ參戰ヲ期待スルモノナルニ付獨伊側カ我方期待ニ背カサル程度迄我方ニ付最善ノ努力ヲ拂ハレタシ

（日英戰爭ノ場合ニ關シテハ昨年三國條約締結當時在京獨大使ノ來翰アリ日米戰爭ノ場合ニ關シテハ條約條文ノ外同趣旨ヲ敷衍セル在京獨大使來翰ノ一項及貴電ノ次第アリ）

四、尙帝國トシテハ此ノ際單獨不媾和ニ關スル協定ヲ日獨間及日伊間ニ別々ニ（獨伊間ニハ既ニ存在ス）締結シ置クコト肝要ノ考慮ヨリ適當ト認ムル處右ハ獨伊トシテモ從來明言セル戰爭完遂ノ建前ヨリ云フモ歡迎スヘキ所ナルヘシト思考セラルルニ付右ニ付テモ急速成立ヲ見ル樣是亦御盡力相成度

外務省

（日本標準規格B5）

五、右申入ノ際獨伊側ヨリ蘇聯邦ニ對スル我方ノ態度ニ關シ質問アリタル際ニ於テハ我方ノ對蘇聞度ニ關シ獨伊側ニ申入ノ通リニシテ今次我方ノ蘇南方行動ニ依リ對蘇牽制ノ措置ヲ發動スルカ如キコトナキハ勿論蘇側カ英米ト合作シテ我方ニ對スル敵對行爲ニ出テ來ルカ如キ場合ニハ斷乎之ヲ排擊スルノ用意ヲ有スルモ差當リハ南方ニ重點ヲ置キ北方ニ對シテ我方ヨリ進ンテ積極的行動ニ出ツルコトハ差控ヘ度キ意圖ナル旨明確ニ明セラレタシ

六、本件ハ作戰上ノ關係モアリ絕體秘密ヲ要スルコトハ勿論ノ儀ニシテ右ニ付テハ獨伊側ニモ特ニ嚴重注意シ置カレ度

七、伊ニ對シテハ在獨大使ヨリ獨側ニ申入ヲ爲シタル當後ニ於テ「ムソリニ」首相及「チ」外相ニ申入レラルルコトト致度

外務省

（日本標準規格B5）

REEL No. A-0299

0524

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

（單獨不媾和ニ關スル宣言書案）

大日本帝國政府及「ドイツ」國政府（「イタリア」國政府）ハ左ノ通宣言ス

兩國政府ハ相互ノ完全ナル合意ニ依ルニ非レハ共同ノ敵タル「アメリカ」合衆國及英帝國ノ何レトモ休戰及媾和ヲ爲ササルヘキコトヲ約ス右證據トシテ下名ハ各其ノ本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本宣言書ニ署名調印セリ

昭和十六年　月　日即チ千九百四十一年（「ファシスト」曆二十年）　月　日ニ於テ日本文及「ドイツ」文（「イタリア」文）ヲ以テ本書二通ヲ作成ス

乙　（別電）

一、日米交渉ハ四月中旬ヨリ開始シ半歲有余ニ亘リ繼續セルカ其間帝國政府ハ終始一貫我國策不動ノ基礎タル三國條約ヲ堅持シ日米國交調整ヲ該條約ニ國際約ノ範圍內ニ於テ妥結ヲ期シ常ニ誠意タル態度ヲ以テ交渉ニ臨ミ條約所期ノ目的タル米國ノ參戰牽制ニ努メタル次第ナリ

二、從テ現內閣ハ既電ノ通リ帝國ノ權威ト存立トヲ最ニ擁護シツツ公正ナル基礎ニ於テ從來交渉ヲ繼續セル）爲交渉ノ主タル難點中ニハ撤兵問題（支那及佛印ヨリノ撤兵ヲ要報ス）ニ關スル彼我見解ノ對立モアリタルモ從來交渉ノ經緯ニ徵スレハ根本ノ難點ハ寧ロ米側ニ於テ國際關係處理ニ關スル其傳統的理念即チ

REEL No. A-0299
0525
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

般ノ英米洋上會議ニ表レタルト同様ノ消極的理念ヲ固執セル點ニ在リ要スルニ米側ノ眞意ハ日獨伊ノ歐亞ニ於ケル新秩序建設（即三國條約ノ目的）ヲ否認妨碍セントス欲スルモノニシテ帝國カ獨伊ト提携スル限リ日米親好關係ノ維持ハ困難ナリト為シ此見地ヨリ遂ニハ捨テ帝國ノ三國條約離脱ヲ要求スルカノ態度ヲ示スニ至リタルカ右ハ交渉最後ノ段階ニ至リ即最近數日間ノ折衝ニ依リ愈々明白トナリタルヲ以テ帝國ハ事茲ニ至リテハ此上ノ交渉徒ラニ時ヲ無益ナリト認メサルヲ得サルニ至レリ

三、二十六日米國政府ノ提示セル對案ハ前記態度ヲ更ニ明ニスルモノニシテ三國條約ニ關シテハ一面國政府ノ一方カ第三國ト締結シ居ル如何ナル協定モ本協定ノ根本目的即太平洋全域ノ平和確

保ニ矛盾スルカ如キ解釋セラレサルヘキコトニ同意スル一切ノ義務アリ右ハ帝國ノ三國條約義務解釋ヲ拘束シ以テ米國カ不日歐洲戰爭ニ參入スル場合帝國ヲシテ獨伊援助ヲ禁控ヘシメントスル企圖ニ出ツルモノナルコト明瞭ニシテ他ノ諸問題ハ兎ニ角トシ本項ノミヲ見ルモ米側提案ハ交渉ノ為渡トスルコト能ハスト認メタリ尚米國政府ハ本案提示ニ先チ英蘭（支）等諸國ト協議ヲ遂ヘタル旨言アリ從テ米國ハ今ヤ右諸國ト有合シ帝國ヲ獨伊ト共ニ敵視スルモノナルコト察知セラル

REEL No. A-0299

0526

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

大島大使ハ直ニ訓令ヲ執行セル處獨伊ニ於テモ趣旨ニ長蒙ナク「り」外相ハ五日深更獨伊對案（日米間ニ戰爭狀態發生スルトキハ獨伊モ亦直ニ米國ト戰爭狀態ニ在ルモノト看做シ一切ノ强力手段ヲ以テ戰爭ヲ遂行スルコト、獨伊ト米國間ニ戰爭狀態發生セル際ハ日本モ亦直ニ米國ト戰爭狀態ニ在ルモノト看做シ一切ノ强力手段ヲ以テ戰爭ヲ遂行スルコト、獨伊ハ完全ナル相互ノ合意ニ依ルニアラサレハ米國ト休戰又ハ講和ヲ爲ササルコトヲ定ム）ヲ提示スルト共ニ交換公文ヲ以テ滿蒙經由ニテ米國カ軍需品ヲ蘇聯ニ供給スルコトヲ帝國ニ於テ阻止スヘキ旨ノ保障ヲ與ヘラレ度シト申出テタリ

直ニ對シテハ案自体ニハ同意ナルモ當時既ニ何時日米衝突發生スルヤモ計リ知レサル情勢ニ立到リ居リタルニ鑑ミ協定案文ハ單獨不侵

和ノミヲ規定スルコトニスル樣文渉方ヲ訓令（七日）シ又獨蘇間ノ件ニ付テハ帝國トシテハ南方作戰中北方ニ事ヲ構ヘサルヲ以テ有利ト認メ獨側カ此ノ申出ヲ撤回スル樣又獨側カ之ヲ固執スル際ニハ少ク共蘇聯船ニ依ル米國軍需品ノ輸送禁止ハ差控ヘ度キ旨ヲ申入ル樣指示セリ

然ル處華府ニ於テハ二日朝獨大使來メニ依リ「ウエルズ」次官（「ハル」長官病氣）ヲ往訪セル處同次官ハ大統領ノ命ニ基ク趣ヲ以テ最近日本ハ南部佛印ニ盛ニ兵力ヲ增强シツツアル處右ハ如何ナル企圖ニ基クモノナリヤトノ趣旨ヲ記載セル覺書ヲ手交シ世界ノ如何ナル部分ニ於テモ侵略ニ反對スル米國ノ立場ハ既ク諒承アリ度シト述ヘタルヲ以テ獨大使ハ爾々十一月二十日ノ日本案ハ一ニ此ノ趣旨ニ

一日獨大使「ウエルズ」次官會談

REEL No. A-0299
0529
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ノ發生ヲ防カントスル者慮ヨリ提示セルモノナルコト故ニ米國其ノ他カ我國ニ對シ加ヘツツアル經濟的壓迫ニ直面シ帝國ハ之ニ屈スルカ又ハ之ヲ突破スルカ二者其ノ一ヲ選ハサルヘカラサル局面ニ當面シ居ルコトヲ諒解アリ度シト述ヘ、二十六日ノ米側提案ハ從來ノ諸合ヲ一掃シタルモノニテ決シテ交渉ノ圓滿且急速解決ニ資スル所以ニアラス帝國ニ於テハ支那事變解決スルカ又ハ東亞ニ公正ナル平和確立ノ際ハ佛印ヨリ撤兵スヘキ旨提議シ居ルニ過ミ根本問題解決セハ本日御申出ノ問題ノ如キハ當然ニ解消スヘキ筋合ナリト說明シタル處岡次官ハ二十六日ノ米側提案ハ要スルニ米國ノ國內情勢ニモ鑑ミ一應米國ノ根本的態度ヲ明ニシ置ク必要ニ出テタルモノナル旨ヲ述ヘタル趣ニシテ隨大使ハ米側ニ於テモ平和的收拾ヲ希望シ急進受

諾ヲ飲リ度キ樣子ナルニ付米側新提案ニ對スル回答及「サ」次官手交ノ覺書ニ對スル回答說明ニ際シテハ右ノ點ヲ充分考慮アリ度キ旨ヲ高申越シタリ

右覺書左ノ通リ

REEL No. A-0299
0528
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

REEL No. A-0299

I have received reports during the past days of continuing Japanese troop movements to southern Indo-China. These reports indicate a very rapid and material increase in the forces of all kinds stationed by Japan in Indo-China.

It was my clear understanding that by the terms of the agreement - and there is no present need to discuss the nature of that agreement - between Japan and the French Government at Vichy the total number of Japanese forces permitted by the terms of that agreement to be stationed in Indo-China was very considerably less than the total amount of the forces already there.

The stationing of these increased Japanese forces in Indo-China would seem to imply the utilization of these forces by Japan for purposes of further aggression, since no such number of forces could possibly be required for the policing of that region.

Such aggression could conceivably be against the Philippine Islands; against the many islands of the East Indies; against Burma; against Maraya or either through coercion or through the actual use of force for the purpose of undertaking the occupation of Thailand.

Such new aggression would, of course, be additional to the acts of aggression already undertaken against China, our attitude towards which is well known, and has been repeatedly stated to the Japanese Government. Please be good enough to request the Japanese Ambassador and Ambassador Kurusu to inquire at once of the Japanese Government what the actual reasons may be for the steps already taken, and what, I am to consider, is the policy of the Japanese Government as demonstrated by this recent and rapid concentration of troops in Indo-China. This Government has seen in

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

the last few years in Europe a policy on the part of the German Government which has involved a constant and steady encroachment upon the territory and rights of free and independent peoples through the utilization of military steps of the same character. It is for that reason and because of the broad problem of American defense that I should like to know the intention of the Japanese Government.

419

外務省

（原文）

420

外務省

REEL No. A-0299

421

印度支那ニ對スル前記ノ如キ日本軍隊ノ增強ハ新ル多數ノ軍隊カ同地域ノ治安維持ノ爲ニ必要トセラルルコトアリ得サルヘキニ從テ更ニ侵略ノ目的ノ爲ニ日本國ニ依ル之等軍隊ノ使用ヲ意味スルモノノ如シ

新ル侵略ハ比島、蘭印諸島、「ビルマ」、馬來半島ヲ目的トシ又ハ强制着ハ武力行使ノ何レカニヨリ泰國占領全國ヲ目的トスルモノト想像シ得ヘシ

既ニ支那ニ對シ行ハレ居ル侵略行爲ニ加フルニ更ニ今次新ニ從略行爲行ハレントシツツアリ然モ支那ニ對スル吾人ノ態度ハ周知ノ所ニシテ且日本國政府ニ對シ屢次申入ヲ重ネタリ

日本國大使及來賓大使ニ對シ既ニ採ラレタル勧告ノ數ノ重要個

外務省

「ル」大統領ノ談話

422

何故ニ余ハ右ノ如キ印度支那ニ於ケル最近ノ急速ナル軍隊集結ニヨリ示サレタル日本國政府ノ政策カ如何ナルモノト考フヘキカニ付述ヘ日本國政府ニ聞合アリ度キ旨要請セラレタレ、當政府ハ最近數年間ニ亘リ歐洲ニ於テ同樣ノ事態ニ依リ自由且獨立ナル諸民族ノ領土及權利ヲ本質ニ且著々ト侵略シ來レル現進國政府ノ政策ヲ觀來レリ、余カ日本國政府ノ意圖ヲ知ラントスルハ右運由ニ依ルモノニシテ且其國國防テフ廣汎ナル問題ノ故ナリ

尙同日「ル」大統領ハ記者團ニ對シ米政府カ佛印方面日本兵力增强ノ意圖如何ニ關シ聞合ヲ發セル旨ヲ披露シ四月以降ノ日米交渉ノ經緯ヲ簡單ニ發表シ若國ノ南部佛印進駐及今次佛印增兵カ何レモ交渉中ニ行ハレタカ故ヲ强調シ右ハ蘭國ニ大々的ニ報道セラレタル點ナ

外務省

REEL No. A-0299
0531
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

「ウ」大官邸会ニ関スル件

428

り

端エナ三日米国基督教会ノ長老タル「スタンレイ・ジョーンズ」カ極端ニ大統領ト面談シ其意図ヲ打診セル所ニ依レハ大統領ハ依然平和的解決ヲ欲シ居ルコト明ナリトノ趣旨ノ電報接到セリ

右ノ「ウ」大官邸会ニ関シテハ政府ハ三日

仏印ニ於ケル我軍増強ニ関スル風説ハ最近仏支国境附近ニ於テ支那軍カ頻ニ蠢動シ居ルニ鑑ミ主トシテ之ニ備ヘンカ為北部仏印ニ於テ一部ノ増強ヲ行ヒ右ト関聯シ自然南部方面部隊ノ移動モ行ハレタルコト勿論大ニ報道セラレタルニ依ルモノト認メラルル故我方ハ日仏共同防衛協定等ノ範囲ヲ何等逸脱シ居ラサル次第ナリトノ趣旨ヲ以テ説明スル様説明今セル(カ)頃大使ヨリハ新聞ン米側カ

在京英国大使ノ申入レ

428

本件ニ関スル我方問答ヲ待ツ事極メテ重要ニ居ルニ鑑ミ『今少シク待国ノ平和的意図ヲ明ニセル問答振』ヲ希望スル旨ヲ申述シタルニ付キ『当方説明以上ノ説明ヲ與フルコトハ機微ナル関係アリテ却テ国内カラサル結果ヲ招来スル虞アルヲ以テ』既ニ説明今セル趣旨ヲ以テ説明スル様指示セリ

然ルニ五日在京英国大使ハ東郷大臣ヲ来訪シ最近日本側ニ於テハ仏モ英国カ蒋国ニ対シ侵略ノ企図アルカ如キ不穏ノ報道ヲ強調シ盛ニ「プレスキャンペイン」ヲ行ヒ居ル点右ハ本官御説ニシテ英国トシテハ仏国カ蒋国ノ独立及領土保全ヲ侵犯セサル限リ絶対ニ侵略ノ意図ナキ旨ヲ厳肇ニ宣言スルモノナリト申入レタルヲ以テ東郷大臣ハ之ヲ「テーク・ノート」シ同大使ノ求メニ應シ日米交渉ノ近況ヲ説

REEL No. A-0299
0532
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

明シ會談ヲ終レリ

對米電書提出

越エテ六日政府ハ左記ヲ野村大使ニ訓電セリ

一、政府ニ於テハ十一月二十六日ノ米側提案ニ付當事者間ヲ通シタル結果別電第×號ノ對米覺書（英文）ヲ決定セリ

二、右別電ハ長文ナル關係モアリ全部（十四部ニ分割打電スヘシ）接受セラルルハ明日トナルヤモ知レサルモ到下ノ情勢ハ極メテ緊迫ナルモノアルニ付右御受領相成リタルコトハ直ニ當リ嚴秘ニ附セラルル樣致サレ度シ

三、右覺書ヲ米側ニ提示スル時期ニ付テハ追テ別ニ電報スベキモ右別電接到ノ上ハ訓令次第何時ニテモ米側ニ手交シ得ル樣文書ノ整理其他諸ノ方策ヲ了シ置カレ度シ

覺書提示ノ時期

尚爲念右覺書ヲ準備スルニ當リテハ「タイピスト」等ハ絶對ニ使用セサル樣機密保持ニハ特ニ御意ヲ期スル樣注意シ置キタルカ本覺書ヲ十四部ニ分割シ一時間置キニ二個ノ經路ヲ利用打電セルハ米側カ一時ニ長文電信ノ送致セラルルヲ見テ我方企圖ヲ察知スルヲ防止セントスル用意ニ出テタルモノナリ

右覺書ヲ米側ニ手交スル時期ノ指示ニ關シテハ作戰トノ關係上外務當局ニ於テハ痛ク苦心セル次第ナル處眞鄕外務大臣ニ於テ開戰ニ先チ外交交渉打切ノ手續ヲ取リ遂クコト是非必要ナル旨ヲ强ク主張シタル結果同大臣ト南部師團參謀部當局トノ懇談ノ上大体交渉打切後幾許ナクシテ我方ノ奇襲作戰實施ヲ見ルノ運ヒトナル樣時間的ニ工夫ヲ加フルコトニ意見一致セリ當初軍側ハ開戰前ノ通告

REEL No. A-0299
0533
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

南大使宛
緊急電報

428

ニ反對シ已ムヲ得サレハ在京米國大使ニ對スル通告ノミニ止メタシト謂シ華府ニ於ケル通告ニハ難色アリタルカ結局外務側ノ要望ニ應シ右ニ妥協セル次第ナリ依テ眞意研究ノ結果覺書ハ華府時間七日午後一時（東京時間八日午前三時）ヲ期シ米側ニ（既ル明夕國務長官ニ）直接手交方ヲ調合シ右ヲ退ヒテ一電ヲ發シタリ

貴南大使カ心血ヲ濺カレタル御奮力ニモ不拘日米國交ノ調整成ラス遂ニ今日ノ事態ニ立到リタルハ實ニ顏ル遺憾トスル所ナリ

此ノ機會ニ南大使ノ御努力ト御勞苦ニ對シ深甚ノ謝意ヲ表スルト共ニ貴館館員御一同ノ御奮闘ヲ感謝ス

右ヲ以テ野村來栖大使宛訓電發出ノ最後ト爲ス次第ノ處七日早朝接受セルUP通信ハ米國々務長官カ 陛下ニ對スル「ルーズベル

（日本標準規格B5）

428

「ル」大統領ノ親電

ト」大統領ノ「メッセーヂ」發送セラレタル旨ヲ公表セリ由報道スル所アリ依テ外務當局ニ於テハ直ニ關係方面ト聯絡シ右「メッセーヂ」到着ヲ待機シ居リタリ然ルニ右「メッセーヂ」ハ相當遲延セルモノノ如ク同夜十時過キニ至リテ初メテ在京「グルウ」米國大使ヨリ東郷外務大臣ニ宛シ重要緊急案件ニ付キ調合樣與シ電文解讀中ナル趣ヲ以テ從來會見致シ度キ旨申越シタルカ同夜半（零時十五分）「グルウ」大使ハ右「メッセーヂ」ヲ携ヘ東郷大臣ヲ官邸ニ來訪セリ

會談ハ十數分ニテ終了セルカ其際「グ」大使ハ「ル」大統領ヨリ 陛下ニ對スル親電標題セルコト並ニ同大使ハ右ヲ渡シタ舞踏ノ上 陛下ニ捧呈方特ニ調合セラレ居ルコトヲ述ヘ外務大臣ノ時間ヲ求

（日本標準規格B5）

REEL No. A-0299

0534

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

4.29

メタリ外務大臣ハ右ニ對シ拜謁ノ儀ハ夜中ノコトニモアリ明朝ニ至ラサレハ手續モ致シ難ヌルモ貴使ノ希望通リ拜謁通ウヘキヤハ親電内容ニモ依ルコトナルヘシトノ意嗣合ヲ應諾セル處「ダ」大使ハ別意ノ親電寫ヲ拜公式ニ大臣ニ手交シ事態頗ル重大ナル點ナルニ付キ是非共拜謁致シ度タ重ネテ特別ノ御配慮ヲ願フト述ヘ再會ヲ約シ辭去シタリ

外務大臣ハ右親電要點ヲ携ヘ總理官邸ニ赴キ首相以下ト緊急臨議ノ結果本件取扱振ノ腹案ヲ大体決定シ同夜午前二時半過内（ 陛下ニハ海軍正裝ニテ出御遊ハサル）ヲ奏聞ヲ伏奏セリ

大綱個「メッセージ」左ノ通リ

[redacted]

外務省

433

（日本標準規格B5）

REEL No. A-0299

0535

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

REEL No. A-0299

His Imperial Majesty
The Emperor of Japan.

Almost a century ago the President of the United States addressed to the Emperor of Japan a message extending an offer of friendship of the people of the United States to the people of Japan. That offer was accepted and in the long period of unbroken peace and friendship which has followed, our respective nations, through the virtues of their peoples and the wisdom of their rulers have prospered and have substantially helped humanity.

Only in situations of extraordinary importance to our two countries need I address to Your Majesty messages on matters of state. I feel I should now so address you because of the deep and far-reaching emergency which appears to be in formation.

Developments are occurring in the Pacific area which threaten to deprive each of our nations and all humanity of the beneficial influence of the long peace between our two countries. Those developments contains tragic possibilities. The people of the United States, believing in peace and in the right of nations to live and let live, have eagerly watched the conversations between our two Governments during these past months. We have hoped for a termination of the present conflict between Japan and China. We have hoped that a peace of the Pacific could be consummated in such a way that nationalities of many diverse peoples could exist side by side without fear of invasion; that unbearable burdens of armaments could be lifted for them all; and that all peoples would resume commerce without discrimination against or in favor of any nation.

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

I am certain that it will be clear to Your Majesty, as it is to me that in seeking these great objectives both Japan and the United States should agree to eliminate any form of military threat. This seems essential to the attainment of the high objectives.

More than a year ago Your Majesty's Government concluded an agreement with the Vichy Government by which five or six thousand Japanese troops were permitted to enter into northern French Indo-China for the protection of Japanese troops which were operating against China further north. And this spring and summer the Vichy Government permitted further Japanese military forces to enter into southern French Indochina for the common defense of French Indo-China. I think I am correct in saying that no attack has been made upon Indochina nor that any has been contemplated.

During the past few weeks it has become clear to the world that Japanese military, naval and air forces have been sent to southern Indochina in such large numbers as to create a reasonable doubt on the part of other nations that this continuing concentration in Indochina is not defensive in its character.

Because these continuing concentrations in Indochina have reached such large proportions and because they extend now to the southeast and the souwest corners of that peninsula it is only reasonable that the people of the Philippines, of the hundreds of islands of the East Indies, of Malaya and of the Thailand itself are asking themselves whether these forces of Japan are preparing or intending to make attack in one or more of these many directions.

I am sure that Your Majesty will understand that the fear of all these peoples is a legitimate fear inasmuch as it involves

REEL No. A-0299

their peace and their national existence. I am sure that Your Majesty will understand why the people of the United States in such large numbers look askance at the establishment of military, naval and air bases manned and equipped so greatly as to constitute armed forces capable of measures of offense.

It is clear that a continuance of such a situation is unthinkable.

None of the peoples whom I have spoken of above can sit either indefinitely or permanently on a keg of dynamite.

There is absolutely no thought on the part of the United States of invading Indochina if every Japanese soldier or sailor were to be withdrawn therefrom.

I think that we can obtain the same assurance from the Government of the East Indies, the Government of Malaya and the

434

外務省 (日本国政府提供)

Government of Thailand. I would even undertake to ask for the same assurance on the part of the Government of China. Thus a withdrawal of the Japanese forces from Indochina would result in the assurance of peace throughout the whole of the South Pacific area.

I address myself to Your Majesty so that Your Majesty may, as I am doing, give thought in this definite emergency to ways of dispelling the dark clouds. I am confident that both of us, for the sake of the peoples not only of our own great countries but for the sake of humanity in neighboring territories, have a sacred duty to restore traditional amity and prevent further death and destruction in the world.

FRANKLIN D. ROOSEVELT

Washington,
December 6, 1941.

435

外務省 (日本国政府提供)

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

REEL No. A-0299

親書復譯

日本國　天皇陛下

約一世紀前米國大統領ハ日本國　天皇ニ對シ書ヲ致シ米國民ノ日本國々民ニ對スル友交ヲ申出タル處右ハ受諾セラレ爾來不斷ノ平和ト友好ノ長期間ニ亘リ兩國民ハ其ノ德ト繁榮者ノ叡智ニヨリテ繁榮シ人類ニ對シ偉大ナル貢獻ヲ爲セリ

陛下ニ對シ余カ國務ニ關シ親書ヲ呈スルハ兩國ニ取リ特ニ重大ナル場合ニ於テノミナルカ現ニ離成セラレツツアル深刻且廣汎ナル非常事態ニ鑑ミ茲ニ一articleヲ呈スヘキモノト感スル次第ナリ

日米兩國民及全人類ヲシテ兩國間ノ長年ニ亘ル平和ノ關係ヲ喪失セシメントスルカ如キ事態カ現ニ太平洋地域ニ發生シツツアリ有情勢ハ悲劇ヲ孕ムモノナリ米國民ハ平和ト兩國家ノ共存ノ福利ト

ヲ憂シ過去數ケ月ニ亘ル日米交渉ヲ熱心ニ注視シ來レリ吾人ハ支那事變ノ終熄ヲ新金シ諸國民ニ於テ使略ノ恐怖ナクシテ共存シ得ルカ如キ太平洋平和カ實施セラレンコトヲ希望シ且堪ヘ難キ軍備ノ負擔ヲ除去シ又各國民カ如何ナル國家ヲモ拚整シ若ハ之ニ脅威ヲ與フルカ如キ差別ヲ設ケサル通商ヲ復活センコトヲ念願セリ

右大目的ヲ達成センカ爲ニハ　陛下ニ於カレテモ余ト同シク日米兩國ハ如何ナル形式ノ軍事的脅威ヲモ除去スルコトニ同意スヘキコト明瞭ナリト信ス

約一年前　陛下ノ政府ハ「ヴイシー」政府ト協定ヲ締結シ之ニ基キ北部佛領印度支那ニ同進駐方ニ於テ支那軍ニ對シ行動ヲ慎リタル日本軍保護ノ爲ニ五、六千ノ軍隊ヲ進駐セシメタリ爾シテ本年

REEL No. A-0299
0539
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

泰及夏「ヴイシー」政府ハ佛領印度支那共同防衛ノ爲更ニ日本軍隊ノ南部佛印進駐ヲ容許セリ余ハ佛領印度支那ニ對シ何等ノ攻擊行ハレタルコトナク又攻擊ヲ企圖セラレタルコトナシト言明シテ差支ナシト思考ス

最近數週間日本陸海空軍部隊ハ驟シタ南部佛領印度支那ニ增强セラレタルコト明白トナリタル爲他國ニ對シ印度支那ニ於ケル集結ノ編成カ其性質上防禦的ニ非ストノ尤モナル疑慮ヲ生セシムルニ至レリ

右印度支那ニ於ケル集結ハ極メテ大規模ニ行ハレ又右ハ今ヤ同半島ノ南東及南西端ニ達シタルヲ以テ比島、東印度數百ノ島嶼馬來及泰國ノ住民ハ日本軍カ之等地方ノ何レカニ對シ攻擊ヲ準備乃至

(日本標準規格B5)

企圖シ居ルニ非スヤト猜疑シツツアルハ蓋シ當然ナリ

之等住民ノ眼テカ進懷スル恐怖ハ其平和及國民的存立ニ關スルモノナルカ故ニ斯ル恐怖ハ當然ナルコトハ　陛下ニ於カレテモ御諒解アラセラルル所ナリト信ス余ハ攻擊措置ヲ執リ得ル程度ニ人員ト裝備トヲ爲セル陸、海及空軍部隊ニ對シ米國民ノ多クカ何故ニ猜疑ノ眼ヲ向クルカヲ　陛下ニ於カセラレテハ御諒解相成ルヘシト思惟ス

斯ル事態ノ發展ハ到底考ヘ及ハサル所ナルコト明カナリ

余カ前述シタル諸國民ハ何レモ僅ニ若ハ恒久ニ「ダイナマイト」樣ノ上ニ坐シ得ルモノニ非ス

若シ日本兵カ企圖的ニ佛領印度支那ヨリ撤去スルニ於テハ合衆國

(日本標準規格B5)

REEL No. A-0299

0540

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ハ同地ニ侵入スルノ意圖毫モナシ

余ハ東印度政府馬來諸政府及蘭國政府ヨリ同様ノ保障ヲ求メ得ルモノト思考シ且支那政府ニ對シテスラ同様保障ヲ求ムル用意アリ

斯タシテ日本軍ノ佛印ヨリノ撤去ハ全南太平洋地域ニ於ケル平和ノ保障ヲ招來スヘシ

余カ　陛下ニ奮ラ致スハ此危局ニ際シ　陛下ニ於カレテモ余ト同様ノ一層スルノ方法ニ關シ考慮セラレンコトヲ希望スルカ爲ナリ余ハ　陛下ト共ニ日米兩國民ノミナラス隣接諸國ノ住民ノ爲兩國民間ニ傳統的友誼ヲ恢復シ世界ニ於ケル此ノ上ノ死滅ト破壊トヲ防止スルノ神聖ナル責務ヲ有スルコトヲ確信スルモノナリ

千九百四十一年十二月六日

「ルー」大統領ニ對スル回答

「ワシントン」ニ於テ

フランクリン・デイ・ローズベルト

外務大臣ハ午前三時半過キ離邸シタルヲ以テ謁定ノ通リ八日午前六時ヲ期シ在京英米大使ニ對シ日米交渉打切ノ通告ヲ行フト共ニ其際「グー」大使ニ對シ左記ヲ「ルー」大統領親電ニ對スル　陛下ノ御思召トシテ通報スルコトトシ手配ヲ進メタリ

記

佛印ニ日本軍隊集結セル事情ニ付テ過般米國大統領ノ聯會ニ對シ日本政府ニ於テ回答セシメタリ

尚佛印ヨリノ撤兵ハ日米交渉ニ於ケル一項目ヲ爲セルモノニシテ右ニ付テモ日本政府ヲシテ意思表示ヲ爲サシメタルニヨリ右ニヨリ御

REEL No. A-0299
0541
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

十二月八日東郷大臣ト米国大使会談

承知相成度シ

而シテ太平洋率テ世界ノ平和康寧ヲ招来セントスルハ朕ノ素志ニシテ之カ為朕ノ政府ヲシテ今日迄努力セシメ来リタルコトハ大統領ニ於テモ夙ニ了承セラレ居ル所タルヘキヲ信ス

其後幾許モナク（四時過キ）陸海軍々務局長ヨリ大臣ニ電話ヲ以テ真珠湾ノ奇襲奏功セル旨通報越シタリ

斯クテ八日朝外務大臣ハ豫定ヨリ稍々遅レテ七時（電話聯絡困難ナリシニ依ル）米英大使ヲ接見シタルカ其際「グ」大使トノ間ニハ要旨左ノ如キ会談（加瀬書記官長同席）行ハレタリ

東郷外務大臣ヨリ昨夜御持参相成リタル「ルーズベルト」大統領ノ

（日本標準規格B5）

聖上陛下ニ奏スル機宜ニ關シテハ貴大使ト會見後右ニ對スル

聖上陛下ノ御思召ヲ拝承スル機會ヲ得タリ即チ　聖上陛下ニ於カセラレテハ貴大使ヲ通シ「ル」大統領ニ下記趣旨ヲ傳達方御下命相成リタリトテ「御印ニ日本軍隊集結セル事情ニ付テハ通牒米國大統領ノ照會ニ對シ日本政府ヲシテ回答セシメタリ御勅印ヨリノ抜萃ハ目米交渉ニ於ケル一項目ヲ為セルモノニシテ右ニ付テモ日本政府ヲシテ電信表示ヲ為サシメタルニヨリ右ニヨリ御承知相成度シ國シテ太平洋迄テ世界ノ平和康寧ヲ招来セントスルハ朕ノ素志ニシテ之カ為朕ノ政府ヲシテ今日迄努力セシメ来リタルコトハ大統領ニ於テモ夙ニ了承セラレ居ル所タルヘキヲ信ス」ノ趣旨ヲ傳ヘタル處同大使ハ右ヲ感懐傾聴シタル上御思召ノ程ハ早速大統領ニ傳達致スヘシト答

（日本標準規格B5）

外務省

REEL No. A-0299

0542

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

へ尚自分ノ有スル訓令ニ依レハ本使ニ於テ拝謁ヲ伺願シタル上親シク右親電ヲ捧呈スヘシトアル處目下重大危局ニ面面致シ居ル際ニモアリ拝謁方将ニ御取計ヲ願ヘマシキヤト申出テタルヲ以テ岡大臣ハ若シ貴大使ノ拝謁ノ目的カ單ニ右親電捧呈ノミナルニ於テハ御屋召カ既遂ノ迫ナルニ付其必要ナキヤニ考ヘラルルモ本大臣ニ於テハ何等貴大使ノ御希望ヲ阻害スル意圖ナク貴大使カ右親電ノ外ニ附加言上スヘキコトモアラハ勿論考慮ニ吝ナラストノ趣旨ヲ答ヘタル處岡大使ハ極メテ満足ノ意風ヲ表シ謝意ヲ述ヘ辞去セリ

本件ハ右ヲ以テ修補シ親電ハ結局捧呈セラレサリシ次第ニシテ此間當時ノ情報局公表ハ多賀ト相違ス

尚岡大使ノ家メニ依リ後刻申入レノ趣旨ヲ英語翻訳シ置キタリ

(日本標準規格B5)

REEL No. A-0299

0543

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

"His Majesty has expressed his gratefulness and appreciation for the cordial message of the President. He has graciously let known his wishes to the Foreign Minister to convey the following to the President as a reply to the latter's message.

"Some days ago, the President made inquiries regarding the circumstances of the augmentation of Japanese forces in French Indo-China, to which His Majesty has directed the Government to reply. Withdrawal of Japanese forces from French Indo-China constitutes one of the subject matters of the Japanese-American negotiation. His Majesty has commanded the Government to state its views to the American Government also on this question. It is, therefore, desired that the President will kindly refer to this reply.

"Establishment of peace in the Pacific and consequently of the world has been the cherished desire of His Majesty, for the realiza-

445

外務省

tion of which he has hitherto made the Government continue its ea endeavors. His Majesty trusts that the President is fully aware of this fact."

447

外務省

REEL No. A-0299

447

貴右會談ノ機會ニ於テ東郷大臣ハ兼定ノ手管ニ從ヒ「グルウ」大使ニ向シ日米交渉打切ニ關スル帝國政府覺書高ヲ手交シ帝國政府ハ日米交渉促進ノ爲ノ最大全力ヲ傾倒シ本大臣亦熱心ニ努力セルコト御承知ノ通ナルモ米國政府ノ態度ニ鑑ミ遺憾乍ラ今後交渉ヲ繼續スルモ成立ノ見込ナシトノ結論ニ達シタルヲ以テ事茲時間七日午後本覺書ヲ米國政府ニ提出方訓令ヒ置キタリ事態茲ニ立至レルハ本大臣ノ最モ遺憾トスル所ナリト述ヘタル處岡大使ハ文書ハ館ノ上拝見スヘク唯今何等意見ヲ申述フルコトハ差控フヘシト述ヘ辭去セリ

覺書全文左ノ如シ

外務省

451

REEL No. A-0299

0545

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

覺書

聯合衆國

一、帝國政府ハ「アメリカ」合衆國政府トノ間ニ友好的諒解ヲ遂ケ兩國共同ノ努力ニ依リ太平洋地域ニ於ケル平和ヲ確保シ以テ世界平和ノ招來ニ貢獻セントスル眞摯ナル希望ニ促サレ本年四月以來合衆國政府トノ間ニ兩國國交ノ調整增進並ニ太平洋地域ノ安定ニ關シ誠意ヲ傾倒シテ交渉ヲ繼續シ來リタル處過去八月ニ亘ル交渉ヲ通シ合衆國政府ノ固持セル主張並ニ此間合衆國及英帝國ノ帝國ニ對シ執レル措置ニ付茲ニ率直ニ其ノ所信ヲ合衆國政府ニ開陳スルノ光榮ヲ有ス

二、東亞ノ安定ヲ確保シ世界ノ平和ニ寄與シ以テ萬邦ヲシテ各其ノ所ヲ得シメントスルハ帝國不動ノ國是ナリ曩ニ中華民國ハ帝國ノ眞意ヲ解セス不幸ニシテ支那事變ノ發生ヲ見ルニ至レルモ帝國ハ平和克復ノ方途ヲ講スルト共ニ戰禍ノ擴大ヲ防止センカ爲終始最善ノ努力ヲ致シ來レリ客年九月帝國カ獨伊兩國トノ間ニ三國條約ヲ締結シタルモ亦右目的ヲ達成センカ爲ニ外ナラス

然ルニ合衆國及英帝國ハ有ラユル手段ヲ竭シ重慶政權ヲ援助シテ日支全面和平ノ成立ヲ妨碍シ東亞ノ安定ニ對スル帝國ノ建設的努力ヲ挫制セルノミナラス或ハ蘭領印度ヲ牽制シ或ハ佛領印度支那ヲ脅威シ帝國ト此等諸地域トカ相携ヘテ共榮ノ理想ヲ實現セントスル企圖ヲ阻害セリ殊ニ帝國カ佛□トノ間ニ締結シタル諒定書ニ

REEL No. A-0299
0546
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

基キ佛領印度支那共同防衛ノ措置ヲ講スルヤ合衆國政府及英國政府ハ之ヲ以テ自國領域ニ對スル脅威ナリト曲解シ和蘭國ヲモ誘ヒ資産凍結令ヲ實施シテ帝國トノ經濟關交ヲ敢テシ明カニ敵對的態度ヲ示スト共ニ帝國ニ對スル軍備ヲ增強シ帝國包圍ノ態勢ヲ整ヘ以テ帝國ノ存立ヲ危殆ナラシムルカ如キ情勢ヲ誘致スルニ至レリ

右ニ拘ラス帝國總理大臣ハ本年八月事態ノ急速收拾ノ爲合衆國大統領ト曾見シ兩國間ニ存在スル太平洋全般ニ亘ル重要問題ヲ討議檢討センコトヲ提議セリ然ルニ合衆國政府ハ右申入ニ主義上實同ヲ與ヘ乍ラ之カ實行ハ兩國間重要問題ニ關シ意見一致ヲ見タル後トスヘシト主張シテ讓ラス

三、仍テ帝國政府ハ九月二十五日從來ノ合衆國政府ノ主張ヲモ充分考

慮ノ上米國案ヲ基礎トシ之ニ帝國政府ノ主張ヲ取入レタル一案ヲ提示シ論議ヲ重ネタルカ双方ノ見解ハ容易ニ一致セサリシヲ以テ現内閣ニ於テハ從來交渉ノ主要難點タリシ諸問題ニ付帝國政府ノ主張ヲ更ニ緩和シタル修正案ヲ提示シ交渉ノ妥結ニ努メタルモ合衆國政府ハ終始當初ノ主張ヲ固執シ協調的態度ニ出テス妥協ハ依然澁滯セリ茲ニ於テ十一月二十日ニ至リ帝國政府ハ兩國國交ノ破綻ヲ回避スル爲最善ノ努力ヲ盡ス趣旨ヲ以テ樞要且緊急ノ問題ニ付公正ナル妥結ヲ圖ル爲前記提案ヲ簡單化シ(一)兩國政府ニ於テ佛印以外ノ南東亞細亞及南太平洋地域ニ武力進出ヲ行ハサル旨ヲ確約スルコト(二)兩國政府ニ於テ蘭領印度ニ於テ其ノ必要トスル物資ノ獲得カ保障セラルル樣相互ニ協力スルコト(三)兩國政府ハ相互ニ

REEL No. A-0299

0544

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

通商關係ヲ資産凍結前ノ狀態ニ復歸スルコト、合衆國政府ハ所要ノ石油ノ對日供給ヲ約スルコト(四)合衆國政府ハ日支兩國ノ和平ニ關スル努力ニ支障ヲ與フルカ如キ行動ニ出テサルコト(五)帝國政府ハ日支間和平成立スルカ又ハ太平洋地域ニ於ケル公正ナル平和確立スル上ハ現ニ佛領印度支那ニ派遣セラレ居ル日本軍隊ヲ撤退スヘク又本了解成立セハ現ニ南部佛領印度支那ニ駐屯中ノ日本軍ハ之ヲ北部佛領印度支那ニ移駐スルノ用意アルコト等ヲ內容トスル新提案ヲ提示シ同時ニ支那問題ニ付テハ合衆國大統領カ曩ニ言明シタル通日支間和平ノ紹介者ト爲ルニ異議ナキモ日支直接交渉開始ノ上ハ合衆國ニ於テ日支和平ヲ妨碍セサル旨ヲ約センコトヲ求メタルカ合衆國政府ハ右新提案ヲ受諾スルヲ得スト爲セルノミナ

ラス援蔣行爲ヲ繼續スル意思ヲ表明シ次テ更ニ前記ノ言明ニ拘ラス大統領ノ所謂日支間和平ノ紹介ヲ行フノ時機猶熟セストテ之ヲ撤回シ遂ニ十一月二十六日ニ至リ偏ニ合衆國政府カ從來固執セル原則ヲ强要スルノ態度ヲ以テ帝國政府ノ主張ヲ無視セル提案ヲ爲スニ至リタルカ右ハ帝國政府ノ最モ遺憾トスル所ナリ

四抑本件交渉開始以來帝國政府ハ終始專ラ公正且謙抑ナル態度ヲ以テ鋭意妥結ニ努メ屢難キヲ忍ヒテ能フ限リノ讓歩ヲ敢テシタルカ交渉上重要事項タリシ支那問題ニ關シテモ協調的態度ヲ示シ合衆國政府ノ提唱セル國際通商上ノ無差別待遇原則遵守ニ付テハ本原則ノ世界各國ニ行ハレンコトヲ希望シ且其ノ實現ニ順應シテ之ヲ支那ヲモ含ム太平洋地域ニ適用スル樣努力スヘキ旨ヲ表明シ尙支

REEL No. A-0299
0548
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

那ニ於ケル第三國ノ公正ナル經濟活動ハ何等之ヲ排除スルモノニアラサルコトヲモ闡明セルカ更ニ佛領印度支那ヨリノ撤兵ニ付テモ情勢緩和ニ資スルカ爲前述ノ如ク南部佛領印度支那ヨリノ即時撤兵ヲ進ンテ提議スル等極力妥協ノ精神ヲ發揮セルハ合衆國政府ノ夙ニ諒解スル所ナリト信ス

然ルニ合衆國政府ハ常ニ理論ニ拘泥シ現實ヲ無視シ其ノ抱懷スル非實際的原則ヲ固執シテ何等讓歩セス徒ニ交渉ヲ遷延セシメタルハ帝國政府ノ諒解ニ苦ム所ナルカ特ニ左記諸點ニ付テハ合衆國政府ノ注意ヲ喚起セサルヲ得ス

(一) 合衆國政府ハ世界平和ノ爲ナリト稱シテ自己ニ好都合ナル前原則ヲ主張シ之カ採擇ヲ帝國政府ニ迫レル處世界ノ平和ハ現實ニ

立脚シ且相手國ノ立場ニ理解ヲ持シ相互ニ受諾シ得ヘキ方途ヲ發見スルコトニ依リテノミ具現シ得ルモノニシテ現實ヲ無視シ一國ノ獨善的主張ヲ相手國ニ強要スルカ如キ態度ハ交渉ノ成立ヲ促進スル所以ノモノニアラス

今般合衆國政府カ日米協定ノ基礎トシテ提議セル諸原則ニ付テハ右ノ中ニハ帝國政府トシテ趣旨ニ於テ賛同ニ吝ナラサルモノアルモ合衆國政府カ直ニ之カ採擇ヲ要望スルハ世界ノ現狀ニ鑑ミ架空ノ理念ニ驅ラルルモノト云フノ外ナシ

尙日、米、英、支、蘇、蘭、泰七國間ニ多邊的不可侵條約ヲ締結スルノ案ノ如キモ徒ニ集團的平和機構ノ舊構想ヲ追フノ結果東亞ノ實情ト遊離セルモノト云フノ外ナシ

REEL No. A-0299
0549
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

456

(二)合衆國政府今次ノ提案中ニ「兩國政府カ第三國ト締結シ居ル如何ナル協定モ本取極ノ根本目的タル太平洋全域ノ平和確保ニ矛盾スルカ如ク解釋セラレサルコトニ付合意ス」トアルハ即チ合衆國カ歐洲戰爭參入ノ場合ニ於ケル帝國ノ三國條約上ノ義務履行ヲ牽制セントスル意圖ヲ以テ提案セルモノト認メラルルヲ以テ右ハ帝國政府ノ受諾シ得サル所ナリ

由來合衆國政府ハ其ノ自己ノ主張ト理念トニ眩惑セラレ自ラ戰爭擴大ヲ企圖シツツアリト謂ハサルヲ得ス合衆國政府ハ一方太平洋地域ノ安定策シ自國ノ背後ヲ安固ト爲シツツ他方英帝國ヲ援ケ歐洲新秩序建設ニ邁進スル獨伊兩國ニ對シ自衛權ノ名ノ下ニ進ンテ攻擊ヲ加ヘントスルモノナルカ右ハ太平洋地域ニ平

457

和的手段ニ依リ安定ノ基礎ヲ築カントスル幾多ノ原則的主張ト全然矛盾背馳スルモノナリ

(三)合衆國政府ハ其ノ固持スル主張ニ於テ武力ニ依ル國際關係處理ヲ排擊シツツ一方英帝國等ト共ニ經濟力ニ依ル壓迫ヲ加ヘツツアル處斯ル壓迫ハ場合ニ依リテハ武力壓迫以上ノ非人道的行爲ニシテ國際關係處理ノ手段トシテ排擊セラルヘキモノナリ

(四)合衆國政府ノ意圖ハ英帝國其ノ他ノ諸國ヲ誘引シ支那其ノ他東亞ノ諸地域ニ對シ其ノ從來保持セル支配的地位ヲ維持強化セントスルモノト見ルノ外ナキ處東亞諸國カ過去百有餘年ニ亘リ英米ノ帝國主義的搾取政策ノ下ニ現狀維持ヲ强ヒラレ兩國繁榮ノ犧牲タルニ甘ンセサルヲ得サリシ歷史的事實ニ鑑ミ右ハ萬邦ヲ

REEL No. A-0299

0550

アジア歷史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

シテ各其ノ所ヲ得シメントスル帝國ノ根本國策ト全然背馳スルモノニシテ帝國政府ノ斷シテ容認スル能ハサル所ナリ

合衆國政府今次提案中佛領印度支那ニ關スル規定ハ正ニ右態度ノ適例ト稱スヘク佛領印度支那ニ關シ佛國ヲ除キ日、米、英、蘭、支、泰六國間ニ同地域ノ領土主權ノ尊重竝ニ貿易及通商ノ均等待遇ヲ約束セントスルハ同地域ヲ六國政府ノ共同保障ノ下ニ立タシメントスルモノニシテ佛國ノ立場ヲ全然無視セル點ハ暫ク措クモ東亞ノ事態ヲ紛糾ニ導キタル最大原因ノ一タル九國條約類似ノ體制ヲ新ニ佛領印度支那ニ擴張セントスルモノト觀ルヘキモノニシテ帝國政府トシテ容認シ得サル所ナリ

(五)合衆國政府カ支那問題ニ關シ帝國ニ要望セル所ハ或ハ全面撤兵

ノ要求ト云ヒ或ハ通商無差別原則ノ無條件適用ト云ヒ何レモ支那ノ現實ヲ無視シ東亞ノ安定勢力タル帝國ノ地位ヲ覆滅セントスルモノナル處合衆國政府カ今次提案ニ於テ重慶政權ヲ除ク如何ナル政權ヲモ軍事的政治的且經濟的ニ支持セサルコトヲ要求シ南京政府ヲ否認シ去ラントスル態度ニ出テタルハ交渉ノ基礎ヲ根抵ヨリ覆スモノト云フヘク右ハ前記援蔣行爲停止ノ拒否ト共ニ合衆國政府カ日支間ニ平常狀態ノ復歸及東亞平和ノ回復ヲ阻害スルノ意思アルコトヲ實證スルモノナリ

五、要之今次合衆國政府ノ提案中ニハ通商條約締結、資產凍結令ノ相互解除、圓弗爲替安定等ノ通商問題乃至支那ニ於ケル治外法權撤廢等本質的ニ不可ナラサル條項ナキニアラサルモ他方四ヶ有餘ニ

REEL No. A-0299
0551
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

亘ル支那事變ノ犧牲ヲ無視シ帝國ノ生存ヲ脅威シ權威ヲ冒瀆スルモノアリ從テ全体的ニ觀テ帝國政府トシテハ交渉ノ基礎トシテ到底之ヲ受諾スルヲ得サルヲ遺憾トス

六、尚帝國政府ハ交渉ノ急速成立ヲ希望スル見地ヨリ日米交渉妥結ノ際ハ英帝國其ノ他ノ關係國トノ間ニモ同時調印方ヲ提議シ合衆國政府モ大体之ニ同意ヲ表示セル次第アル處合衆國政府ハ英、濠、蘭、重慶等ト屢協議セル結果特ニ支那問題ニ關シテハ重慶側ノ意見ニ迎合シ前記諸提案ヲ爲セルモノト認メラレ右諸國ハ何レモ合衆國ト同シク帝國ノ立場ヲ無視セントスルモノト斷セサルヲ得ス

七、惟フニ合衆國政府ノ意圖ハ英帝國其ノ他ト苟合策動シテ東亞ニ於ケル帝國ノ新秩序建設ニ依ル平和確立ノ努力ヲ妨碍セントスルノ

ミナラス日支兩國ヲ相鬪ハシメ以テ英米ノ利益ヲ擁護セントスルモノナルコトハ今次交渉ヲ通シ明瞭ト爲リタル所ナリ斯クテ日米國交ヲ調整シ合衆國政府ト相携ヘテ太平洋ノ平和ヲ維持確立セントスル帝國政府ノ希望ハ遂ニ失ハレタリ

仍テ帝國政府ハ茲ニ合衆國政府ノ態度ニ鑑ミ今後交渉ヲ繼續スルモ妥結ニ達スルヲ得スト認ムルノ外ナキ旨ヲ合衆國政府ニ通告スルヲ遺憾トスルモノナリ

REEL No. A-0299
0552
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

MEMORANDUM

I. The Government of Japan, prompted by a genuine desire to come to an amicable understanding with the Government of the United States in order that the two countries by their joint efforts may secure the peace of the Pacific area and thereby contribute toward the realization of world peace, has continued negotiations with the utmost sincerity since April last with the Government of the United States regarding the adjustment and advancement of Japanese-American relations and the stabilization of the Pacific area.

The Japanese Government has the honor to state frankly its views concerning the claims the American Government has persistently maintained as well as the measures the United States and Great Britain have taken toward Japan during these eight months.

II. It is the immutable policy of the Japanese Government to

外務省
(日本国外交文書)

insure the stability of East Asia and to promote world peace, and thereby to enable all nations to find each its proper place in the world.

Ever since the China Affair broke out owing to the failure on the part of China to comprehend Japan's true intentions, the Japanese Government has striven for the restoration of peace and it has consistently exerted its best efforts to prevent the extention of war-like disturbances. It was also to that end that in September last year Japan concluded the Tripartite Pact with Germany and Italy.

However, both the United States and Great Britain have resorted to every possible measure to assist the Chungking régime so as to obstruct the establishment of a general peace between Japan and China, interfering with Japan's constructive endeavours toward the stabilization of East Asia. Exerting pressure on the Netherlands East Indies,

外務省
(日本国外交文書)

REEL No. A-0299

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

or manacing French Indo-China, they have attempted to frustrate Japan's aspiration to realize the ideal of common prosperity in cooperation with these regions. Furthermore, when Japan in accordance with its Protocol with France took measures of joint defence of French Indo-China, both America and British Governments, wilfully misinterpreted it as a threat to their own possessions and inducing the Netherlands Government to follow suit, they enforced the assets freezing order, thus severing economic relations with Japan. While manifesting thus an obviously hostile attitude, these countries have strengthened their military preparations perfecting an encirclement of Japan, and have brought about a situation which endangers the very existence of the Empire.

Nevertheless, to facilitate a speedy settlement, the Premier of Japan proposed, in August last, to meet the President of the United

States for a discussion of important problems between the two countries covering the entire Pacific area. However, the American Government, while accepting in principle the Japanese proposal, insisted that the meeting should take place after an agreement of view had been reached on fundamental and essential questions.

III. Subsequently, on September 25th the Japanese Government submitted a proposal based on the formula proposed by the American Government, taking fully into consideration past American claims and also incorporating Japanese views. Repeated discussions proved of no avail in producing readily an agreement of view. The present Cabinet, therefore, submitted a revised proposals moderating still further the Japanese claims regarding the principal points of difficulty in the negotiation and endeavoured strenuously to reach a settlement. But the American Government, adhering steadfastly to

(日本語速記B6)

REEL No. A-0299

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

REEL No. A-0299

its original assertions, failed to display in the slightest degree a spirit of conciliation. The negotiation made no progress. Thereupon, the Japanese Government, with a view to doing its utmost for averting a crisis in Japanese-American relations, submitted on November 20th still another proposal in order to arrive at an equitable solution of the more essential and urgent questions, which, simplifying its previous proposal, stipulated the following points:

(1) The Governments of Japan and the United States undertake not to dispatch armed forces into any of the regions, excepting French Indo-China, in the South Eastern Asia and the Southern Pacific area.

(2) Both Governments shall cooperate with a view to securing the acquisition in the Netherlands East Indies of those goods and commodities of which the two countries are in need.

(3) Both Governments mutually undertake to restore commercial relations to those prevailing prior to the freezing of assets.

The Government of the United States shall supply Japan the required quantity of oil.

(4) The Government of the United States undertakes not to resort to measures and actions prejudicial to the endeavours for the restoration of general peace between Japan and China.

(5) The Japanese Government undertakes to withdraw troops now stationed in French Indo-China upon either the restoration of peace between Japan and China or the establishment of an equitable peace in the Pacific area; and it is prepared to remove the Japanese troops in the southern part of French Indo-China to the northern part upon the conclusion of the

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

REEL No. A-0299

present agreement.

As regards China, the Japanese Government, while expressing its readiness to accept the offer of the President of the United States to act as "introducer" of peace between Japan and China as was previously suggested, asked for an undertaking on the part of the United States to do nothing prejudicial to the restoration of Sino-Japanese peace when the two parties have commenced direct negotiations.

The American Government not only rejected the abovementioned new proposal, but made known its intention to continue its aid to Chiang Kai-shek; and in spite of its suggestion mentioned above, withdrew the offer of the President to act as the so-called "introducer" of peace between Japan and China, pleading that time was not yet ripe for it. Finally on November 26th, in an attitude to impose upon the Japanese Government those principles it has

persistently maintained, the American Government made a proposal totally ignoring Japanese claims, which is a source of profound regret to the Japanese Government.

IV. From the beginning of the present negotiation the Japanese Government has always maintained an attitude of fairness and moderation, and did its best to reach a settlement, for which it made all possible concessions often in spite of great difficulties. As for the China question which constituted an important subject of the negotiation, the Japanese Government showed a most conciliatory attitude. As for the principle of non-discrimination in international commerce, advocated by the American Government, the Japanese Government expressed its desire to see the said principle applied throughout the world, and declared that along with the actual practice of this principle in the world, the Japanese Government would

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

endeavour to apply the same in the Pacific area, including China, and made it clear that Japan had no intention of excluding from China economic activities of third Powers pursued on an equitable basis. Furthermore, as regards the question of withdrawing troops from French Indo-China, the Japanese Government even volunteered, as mentioned above, to carry out an immediate evacuation of troops from Southern French Indo-China as a measure of easing the situation. It is presumed that the spirit of conciliation exhibited to the utmost degree by the Japanese Government in all these matters is fully appreciated by the American Government.

On the other hand, the American Government, always holding fast to theories in disregard of realities, and refusing to yield an inch on its impractical principles, caused undue delays in the negotiation. It is difficult to understand this attitude of the American Government

and the Japanese Government desires to call the attention of the American Government especially to the following points:

1. The American Government advocates in the name of world peace those principles favorable to it and urges upon the Japanese Government the acceptance thereof. The peace of the world may be brought about only by discovering a mutually acceptable formula though recognition of the reality of the situation and mutual appreciation of one another's position. An attitude such as ignores realities and imposes one's selfish views upon others will scarcely serve the purpose of facilitating the consummation of negotiations.

Of the various principles put forward by the American Government as a basis of the Japanese-American agreement, there are some which the Japanese Government is ready to accept in

REEL No. A-0299

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

principle, but in view of the world's actual conditions, it seems only a utopian ideal, on the part of the American Government, to attempt to force their immediate adoption.

Again, the proposal to conclude a multilateral non-aggression pact between Japan, the United States, Great Britain, China, the Soviet Union, the Netherlands, and Thailand, which is patterned after the old concept of collective security, is far removed from the realities of East Asia.

2. The American proposal contains a stipulation which states: "Both Governments will agree that no agreement, which either has concluded with any third Powers, shall be interpreted by it in such a way as to conflict with the fundamental purpose of this agreement, the establishment and preservation of peace throughout the Pacific area." It is presumed that the above

provision has been proposed with a view to restrain Japan from fulfilling its obligations under the Tripartite Pact when the United States participates in the war in Europe, and, as such, it cannot be accepted by the Japanese Government.

The American Government, obsessed with its own views and opinions, may be said to be scheming for the extension of the War. While it seeks, on the one hand, to secure its rear by stabilizing the Pacific area, it is engaged, on the other hand, in aiding Great Britain and preparing to attack, in the name of self-defense, Germany and Italy - two Powers that are striving to establish a new order in Europe. Such a policy is totally at variance with the many principles upon which the American Government proposes to found the stability of the Pacific area through peaceful means.

REEL No. A-0299

3. Whereas the American Government, under the principles it rigidly upholds, objects to settling international issues through military pressure, it is exercising in conjunction with Great Britain and other nations pressure by economic powers. Resource to such pressure as a means of dealing with international relations should be condemned as it is at times more inhumane than military pressure.

4. It is impossible not to reach the conclusion that the American Government desires to maintain and strengthen, in collusion with Great Britain and other Powers, its dominant position it has hitherto occupied not only in China but in other areas of East Asia. It is a fact of history that the countries of East Asia for the past hundred years or more have been compelled to observe the status quo under the Anglo-American

policy of imperialistic exploitation and to sacrifice themselves to the prosperity of the two nations. The Japanese Government cannot tolerate the perpetuation of such a situation since it directly runs counter to Japan's fundamental policy to enable all nations to enjoy each its proper place in the world.

The stipulation proposed by the American Government relative to French Indo-China is a good exemplification of the above-mentioned American policy. That the six countries - Japan, the United States, Great Britain, the Netherlands, China and Thailand - excepting France, should undertake among themselves to respect the territorial integrity and sovereignty of French Indo-China and equality of treatment in trade and commerce would be tantamount to placing that territory under the joint guarantee of the Governments of those six countries. Apart from

外務省
(日本語版格納)
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/
REEL No. A-0299

the fact that such a proposal totally ignores the position of France, it is unacceptable to the Japanese Government in that such an arrangement cannot but be considered as an extension to French Indo-China of a system similar to the Nine Power Treaty structure which is the chief factor responsible for the present predicament of East Asia.

5. All the items demanded of Japan by the American Government regarding China such as wholesale evacuation of troops or unconditional application of the principle of non-discrimination in international commerce ignore the actual conditions of China, and are calculated to destroy Japan's position as the stabilizing factor of East Asia. The attitude of the American Government in demanding Japan not to support militarily, politically or economically any régime other than the régime at

Chungking, disregarding thereby the existence of the Nanking Government, shatters the very basis of the present negotiation. This demand of the American Government falling, as it does, in line with its above-mentioned refusal to cease from aiding the Chungking régime, demonstrates clearly the intention of the American Government to obstruct the restoration of normal relations between Japan and China and the return of peace to East Asia.

V. In brief, the American proposal contains certain acceptable items such as those concerning commerce, including the conclusion of a trade agreement, mutual removal of the freezing restrictions, and stabilization of the yen and dollar exchange, or the abolition of extraterritorial rights in China. On the other hand, however, the proposal in question ignores Japan's sacrifices in the four years of

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/
REEL No. A-0299

the China Affair, menaces the Empire's existence itself and disparages its honour and prestige. Therefore, viewed in its entirety, the Japanese Government regrets that it cannot accept the proposal as a basis of negotiation.

VI. The Japanese Government, in its desire for an early conclusion of the negotiation, proposed that simultaneously with the conclusion of the Japanese-American negotiation, agreements be signed with Great Britain and other interested countries. The proposal was accepted by the American Government. However, since the American Government has made the proposal of November 26th as a result of frequent consultations with Great Britain, Australia, the Netherlands and Chungking, and presumably by catering to the wishes of the Chungking régime on the questions of China, it must be concluded that all these countries are at one with the United States in ignoring

Japan's position.

VII. Obviously it is the intention of the American Government to conspire with Great Britain and other countries to obstruct Japan's efforts toward the establishment of peace through the creation of a new order in East Asia, and especially to preserve Anglo-American rights and interests by keeping Japan and China at war. This intention has been revealed clearly during the course of the present negotiation. Thus, the earnest hope of the Japanese Government to adjust Japanese-American relations and to preserve and promote the peace of the Pacific through cooperation with the American Government has finally been lost.

The Japanese Government regrets to have to notify hereby the American Government that, in view of the attitude of the American Government, it cannot but consider that it is impossible to reach an

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/
REEL No. A-0299

agreement through further negotiations.

REEL No. A-0299
0066
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

十二月八日東郷大臣英國大使會談

481

米國大使ハ右會見ノ際ハ之ニ先チ戰爭狀態既ニ發生シ居リタル事實（同日朝六時特別放送ヲ以テ公表セラレ居リタルニ拘ラス）ヲ知リ居ラス交渉打切サヘモ意外トシ居タル樣ニシテ此點ハ眞メニ依リ同大使ニ引續キ外務大臣ヲ來訪セル英國大使モ全ク同樣ナリシ次第ナリ

即午前八時東郷大臣ハ「クレイギイ」大使ヲ引見シテ米國大使ニ對スルト同樣簡單ニ日米交渉打切ノ已ムナキニ至レル旨ヲ述ヘ對米覺書寫ヲ手交シ右ハ寫ナルモ英國ハ本交渉ニ甚大ナル關係ヲ有シ居リ英米關係ハ事實上不可分ナルニ鑑ミ最近ノ日英間諸問題ニ關スル帝國政府ノ見解ヲ表示セルモノト了解セラレ度シト述ヘタル處同大使ハ交渉決裂ニ付テハ同大臣同樣之ヲ深ク遺憾トスル旨ヲ述ヘ尙情報

482

ニ依レハ日本船舶多數軍隊ヲ護衛シ「シヤム」灣ヲ西航中ノ由ニテ一部ハ泰領ニ德ハ馬來半島ニ向フモノナルヤニ想像セラルル處若シ日本軍カ同地方ニ侵入スルニ於テハ由々敷事態ヲ誘發スヘシ英國ハ過日モ申述ヘタル通リ（五日本大臣トノ會見ヲ意味ス）佛國カ泰ノ獨立及保全ヲ尊重スルニ於テハ進テ之ヲ侵害スル何等ノ意圖ナシ就テハ日本政府ニ於テ軍部ヲ抑制センコトヲ希望スト述ヘタルヲ以テ同大臣ハ昨夜來ノ情勢ニ付テハ詳知セス尤モ本報モ帝國境附近ニ英國側カ印度兵等ヲ集結シ居ル旨ノ報道ヲ聞キ及ヒ居リ同方面ノ事態ハ平常ニアラスト認メラレ此ノ情勢ニ對應スル爲メ我艦船カ近海ヲ警戒シ居ルモノナルヘシト考フ、本大臣ハ目下在泰帝國大使ヨリ情報ヲ收集セ居ルニ付キ右接到ノ上ハ之ヲモ考慮ニ入レ情勢ヲ研究ス

REEL No. A-0299
0563
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ルコトトスヘシト答ヘタルニ同大使ハ平和ヲ擁護スル分子ノ提議的報道ヲ警戒セラレ度シトノ趣旨ヲ述ヘ辭去セリ

開戰前後ノ措置

他方外務省（亞米利加局第一課）ニ於テハ當時ハ連日頻更紀綱ヲ居リタルカ六、七月日ハ特ニ金力ヲ擧ケテ微書公表書類ノ準備ニ當ルト共ニ御開戰、對米覺書、交渉經緯概要、政府聲明、組織放送等ヲ英譯發埋シ多忙ヲ極メタリ（之トサシ）敵國人トナル（キ米英其他ノ外交官及一般在留民ノ抑留其他ノ手當ヲ不着キ後ヘ居タル退營視聽ニ於テ八日早朝ヨリ米英大使館ノ電話ヲ切斷スル等ノ措置ヲ講シ（外務大臣ト米英兩大使トノ會見カ豫定ヨリ遲レタルハ此ノ爲ナリ）ホルカ同日（午前十時四十五分ヨリ二十分間）宮中ニ於テ御書院會議行ハレ對米英宣戰御詔勅可決セラレ次イテ午前十一時四十分ヲ以テ遂ニ大詔渙發ヲ見ルニ至レリ又大詔渙發ト前後シテ省員ハ表セ米英大使ヲ警防開戰通牒ヲ手交セリ

REEL No. A-0299
0564
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

十二月八日南大使「ハル」會談ノ狀況

然ルニ此間米國大使ハ同朝東郷大臣ヨリ受取リタル緊電回答及覺書ヲ本國政府ニ電報セントセルモ電信線切斷セラレ居リテ果ス能ハス當方ニ於テモ右ハ何トカシテ米國政府ニ通報センメ度キモノト考ヘ苦心中ノ處偶々米國外務省ヨリ同大使ヲ電話ニ呼ビ出シ居ルヲ知リタルニ依リ該電話局トモ協議ノ上特ニ電話線ヲ借受シ通話ヲ取計ハシメ密ニ之ヲ聽取セリ、右通話ニハ些シタル誤モナカリシモ「グルウ」大使ハ覺書ニ言及セル際「ハミルトン」極東部長ヨリ最後ノ奇策ノ事實ヲ告ケラレ萬々驚愕セル模樣ナリシ趣ナリ、右ト前後シテ「ハル」長官ヨリ「グルウ」大使宛電信ヲ傍受セル處（「グ」大使ニハ傳達セラレス）右ハ當方ニ於テ野村東郷兩大使ノ米國ニ對スル覺書手交ノ狀況ヲ察知スル唯一ノ資料タルモノニシテ、即右ニ依

レハ、南大使ハ訓令通リ七日午後一時ニ「ハル」長官ニ會見方ヲ申入レタルニ、訓電解讀遲延シタル爲實際ニ會見セルハ二時二十分過キトナリタル樣子ナル處之ヨリ先眞珠灣ニ於テハ一時二十分過キ頃既ニ戰鬪開始セラレ居タル次第ナリ

一

REEL No. A-0299
0565
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

From Hull, Washington

To Grew, Tokyo

December 8th, 1941.

The Department has been informed by the War Department that at 8 a.m. today (Honolulu time) 50 or more Japanese dive-bombing planes, presumably from an air-craft carrier, dropped bombs in and around Honolulu. According to unconfirmed radio reports, the Japanese Government has declared war against the United States and Great Britain.

At 1 p.m. on December 7th, the Japanese Ambassador asked for an appointment with the Secretary of State. The Ambassador and Mr. Kurusu were received at 2.20 p.m. The Ambassador opened the conversation by saying that he was sorry that he had been delayed, as

his instructions were to deliver the paper, which he then handed the Secretary, at 1 p.m., but that owing to inability to decode instructions, he had been delayed. After reading 2 or 3 pages of the paper, the Secretary asked the Ambassador whether it was presented under instructions of the Japanese Government. The Ambassador replied in the affirmative. The Secretary thereupon read the remainder of the paper, after which he made to the Ambassador a brief statement which was critical of the contents of the document.

The Japanese representatives than took their leave without comment.

Hull.

REEL No. A-0299

尚「グルウ」大使ノ本國政府ニ對スル電信二通（編電問答及我方覺書）ハ其後間モナク例外トシテ特別ノ取計ヲ以テ華府ヘ打電方措置セリ從テ「ル」大統領ハ「メッセーヂ」ニ對スル長キ遅リノ御墨召ヲ入手セル筈ナリ

米側ノ暴虐ト其責任

其後米國側ハ我方覺書ノ提示カ眞珠灣奇襲後ニ行ハレタルコトニ對シ損ニ非ラサル恰モ帝國カ交渉進捗中ニ攻撃ヲ開始シ背信行爲ヲ犯セルヤニ宣傳シタルヲ以テ右ニ對抗スル爲十日出先公館ニ對シ左記ヲ訓電セリ

記ノ訓電ヲ

一、米國大統領ハ八日議會ニ對シ翌日宣戰ヲ發通セル教書ヲ送リ日本ハ外交交渉繼續中ナルニ拘ラス無警告ニテ米國ニ攻撃ヲ加ヘタルカ同日夜米日本大使ヨリ交渉打切ノ覺書ヲ受領セルモ書ニハ何等武力行使ノ暴挙ナク當時既ニ一時間前ニ「ホノルル」ニ空襲行ハレ居リ同地ト日本トノ距離ヲ考慮セハ右ハ計畫的侵略行爲ナルコト明ナリト述ヘ非戰ノ誠意ヲ強調シテハ之ノ惨害ニテ町然反駁方措置アリ度シ

二、我方ハ勝次電報ノ通リ八ケ月ニ亘リ誠意ヲ盡シテ日米國交調整ニ努力シタルニ拘ラス米側ハ終始其主張ヲ固執シ誠意ノ片鱗ヲ示サス英米蘭合シテ帝國ヲ脅迫シ我生存ト經國トヲ危殆

REEL No. A-0299
0564
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ニ陷フシメタルニ依リ遂ニ自衛手段ヲ採ルヲ余儀ナクセラレタル次第ニシテ事態ヲ茲ニ立至ラシメタルハ偏ニ英米ノ責任ナリ

軍事行動發動ニ付テハ彼ヨリ進テ攻撃ニ出ツル態勢顕著ナリシヲ以テ（泰、馬來國境方面ニ於テハ英軍ノ集結）行ハレ英軍ハ何時泰領ニ侵入スルヤモ計ラレス又比島方面ノ米國軍備漸々増強セラレ米國飛行機ノ臺灣上空飛來等アリテ頻繁極メテ緊迫セルモノアリタリ）我方ハ防衛的戰鬪手段ニ出テタル次第ナリ

三、又大統領ノ所謂外交交渉云々ニ關シテハ我方（華府時間七日午後一時ヲ期シテ交渉打切ヲ通報セル到米覺書ヲ米國ニ手交手配方調令シ置ケル次第ナリ現ニ野村大使ハ右時間ニ曾見方ヲ申入レタルニ拘ラス何等カノ都合ニテ二時半頃迄遲延セルモノノ如キ

間報モアリ右遲延ノ結果「ハワイ」攻撃實施後トナレルヤモ知レサルカ我方所期ノ通リ午後一時ニ曾見取運ビ居リタルハ交渉打切ハ開戰前ニ通報ヲ了シ居タル筈ナリ

從テ我方トシテハ開戰前交渉ヲ打切リタルモノト認メ居レリ（右事情貴官限リノ御參考迄）

又交渉打切ノ通告ニ武力行使ノ意圖ヲ明示セサリシコトハ普通ノコトニシテ右明示ヲ期待スルハ專ロ不思議ニ云フヘシ

四、我方カ軍事行動ノ準備ヲ遂ケ居リタルハ事實ナルモ前記ノ事情ニ鑑ミ右ハ自衛上當然ノ措置ト云フヘク與スルニ大統領ノ教書ハ不覺ニモ參敗ヲ喫シタル爲國論ノ手前モアリ自己ノ立場ヲ作ランカ爲ニ極力我方ヲ誣ヒ居ルモノト認ムルノ外ナシ

REEL No. A-0299
0568
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

日獨伊單獨不講和協定ノ成立

而尚今次開戰ニ關スル政府聲明、交渉經緯等ニ付テハ機會ヲ改メ
テ國民ニ帝國ノ公正ナル立場ヲ說明シ輿論指導ニ努力
セフレ度シ

他方此間ニ於ケル獨（伊）政府トノ交渉ヲ一管スルニ七日夜「リッ
ベントロップ」外相ハ大島大使ニ對シ未タ總統ノ決裁ハ經テ居ラサ
モ獨伊共通ニ對米參戰ヲ行フヘキコト勿論ニシテ從テ日本ノ對米英
戰爭ヲ假定セル協定ハ既ニ無用トナリタルヲ以テ之ヲ取止ムルコト
トシ日本側提案ノ單獨不講和宣言ノモニ付明八日直ニ案文ヲ協議ス
ヘキ旨及獨伊參戰ノ形式ヲ右宣言發表ノ時期等ニ關シテモ其後協議
スヘク、尙右ノ次第ハ「〉チアノ」伊外相ニモ電話傳達ヲナル旨

ノ內諾アリタリ、然ルニ本交渉途中ニ於テ日米開戰シ八日朝對米英
宣戰詔勅渙發セラレタルヲ以テ政府ハ直ニ在獨大使ニ對シ大至急獨
伊トノ會談ヲ開催スル樣訓令シ、八日大島大使ハ「リ」外相ニ對シ
獨伊ノ米英ニ對スル正式宣戰布告ヲ要望スル旨ヲ申入レタル處同外
相ハ大本營ニ在ル總統トモ協議ノ上速ニ指圖スヘキ旨ヲ約スト共ニ
總統ハ八日朝既ニ議會ニ對シ米國議會ニ通牒文書提出時間ニ
於テ、之ヲ攻擊スヘキ旨ノ命令ヲ發シタル來電ヲ內話セル趣ナルカ
丸日獨伊三國協定案文ヲ回示シ來リ當方ニ於テ右ニ基キ
ノ修正ヲ加ヘ折衝ノ結果成案ヲ得タルヲ以テ十日獨伊三國
經テ茲ニ三國間ニ米英ニ對スル共同戰爭遂行、單獨不講和及世界新
秩序建設ニ對スル協力ヲ誓約セル協定ハ十一日伯林ニ於テ調印ヲ見

REEL No. A-0299
0569
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ル事ヨリ、同日獨伊兩國ハ夫々米英ニ宣戰ヲ布告セリ

外務省

(日本標準規格B5)

一、日本國、「ドイツ」國及「イタリア」國間協定

昭和十六年(千九百四十一)年十二月十日「ベルリン」ニ於テ署名
同　年(同　年)同　月同日　効力ヲ生ジ　實施
同　年(同　年)十二月十六日　官報ヲ以テ公布

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ茲ニ昭和十六年十二月十一日「ベルリン」ニ於テ帝國政府全權大使カ關係各國代表者ト共ニ署名調印シタル日本國、「ドイツ」國及「イタリア」國間協定ヲ茲ニ公布セシム

御名御璽

昭和十六年十二月十六日

内閣總理大臣兼陸軍大臣　東條英機
海軍大臣　嶋田繁太郎
外務大臣　東郷茂徳

外務省

(日本標準規格B5)

REEL No. A-0299

0570

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

日本國、「ドイツ」國及「イタリア」國間協定

「アメリカ」合衆國及英國ニ對スル共同ノ戰爭カ完結セラルル迄ハ平戈ヲ收メサルノ餘乎不動ノ決意ヲ以テ大日本帝國政府、「ドイツ」國政府及「イタリア」國政府ハ左ノ諸條規定ヲ協定セリ

第一條

日本國、「ドイツ」國及「イタリア」國ハ「アメリカ」合衆國及英國ニ依リ強制セラレタル戰爭ヲ其ノ執リ得ル一切ノ強力手段ヲ以テ勝利ニ導ク迄遂行スヘシ

第二條

日本國、「ドイツ」國及「イタリア」國ハ相互ノ完全ナル了解ニ依ルニ非サレハ「アメリカ」合衆國及英國ノ何レトモ休戰又ハ講和ヲ

為ササルコトヲ約ス

第三條

日本國、「ドイツ」國及「イタリア」國ハ戰爭ヲ勝利ヲ以テ終結シタル後ニ於テモ亦千九百四十年九月二十七日其ノ締結シタル三國條約ノ意義ニ於ケル公正ナル新秩序樹立ノ為ノ共同ニ盡力スヘシ

第四條

本協定ハ署名ト同時ニ實施セラルヘク且千九百四十年九月二十七日ノ三國條約ト同一期間有效タルヘシ締約國ハ右有效期間ノ終了前當ナル時期ニ於テ其後ニ於ケル本協定第三條ニ規定セラレタル目的ノ態樣ニ付了解ヲ遂クヘシ

REEL No. A-0299
0371
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

REEL No. A-0299

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

499

外務省

（日本使用特殊用紙）

503

第二章「ルーマニア」及「ポーランド」文及「ハンガリア」文ヲ廃シ第三項ヲ左記ニ改ム

昭和十年十二月十一日「ベルサイユ」ニ於テ日本文、「ポーランド」文及「ハンガリア」文ヲ廃シ第三項ヲ左記ニ改ム

千九百四十一年、「ハンガリア」

（略）

（略）

（略）

大臣

第二章ニ関シ特殊ノ事情ニ基ク場合ニ於テハ政府ヨリ正式ノ委任ヲ受ケタル国際連盟理事会ノ代表者ハ

右議事録ニ署名シ、各当事国政府ヨリ正式ノ委任ヲ受ケタル国際連盟理事会ノ代表者ハ

調印セリ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ABKOMMEN ZWISCHEN DEUTSCHLAND, ITALIEN
UND JAPAN.

In dem unerschütterlichen Entschluss, die Waffen nicht niederzulegen, bis der gemeinsame Krieg gegen die Vereinigten Staaten von Amerika und England zum erfolgreichen Ende geführt worden ist, haben sich die Deutsche Regierung, die Italienische Regierung und die Japanische Regierung über folgende Bestimmungen geeinigt:

Artikel 1.

Deutschland, Italien und Japan werden den ihnen von den Vereinigten Staaten von Amerika und England aufgezwungenen Krieg mit allen ihnen zu Gebote stehenden Machtmitteln gemeinsam bis zum siegreichen Ende führen.

Artikel 2.

Deutschland, Italien und Japan verpflichten sich, ohne volles

gegenseitigem Einverständnis weder mit den Vereinigten Staaten von Amerika noch mit England Waffenstillstand oder Frieden zu schliessen.

Artikel 3.

Deutschland, Italien und Japan werden auch nach siegreicher Beendigung des Krieges zum Zwecke der Herbeiführung einer gerechten Neuordnung im Sinne des von ihnen am 27. September 1940 abgeschlossenen Dreimächtepaktes auf das engste zusammenarbeiten.

Artikel 4.

Dieses Abkommen tritt sofort mit seiner Unterzeichnung in Kraft und bleibt ebenso lange wie der Dreimächtepakt vom 27. September 1940 in Geltung. Die hohen vertragschliessenden Teile werden sich rechtzeitig vor Ablauf dieser Geltungsdauer über die weitere Gestaltung ihrer in Artikel 3 dieses Abkommens vorgesehenen Zusammenarbeit verständigen.

REEL No. A-0299

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

Zu Urkund dessen haben die Unterzeichneten, von ihren Regierungen gehörig bevollmächtigt, dieses Abkommen unterzeichnet und mit ihren Siegeln versehen.

Ausgefertigt in dreifacher Urschrift, in deutscher, italienischer und japanischer Sprache in Berlin, am 11. Dezember 1941 - im XX. Jahre der faschistischen Aera - entsprechend dem 11. Tage des 12. Monats des 16. Jahres der Aera Syōwa.

Oshima (L.S.)
Joachim v. Ribbentrop (L.S.)
Dino Alfieri (L.S.)

502

外務省

ACCORDO FRA L'ITALIA, LA GERMANIA
E IL GIAPPONE.

Nella irremovibile decisione di non deporre le armi finché non sia stata portata a vittoriosa fine la guerra comune contro gli Stati Uniti d'America e l'Inghilterra, il Governo italiano, il Governo germanico e il Governo giapponese si sono accordati sulle seguenti clausole:

Articolo 1

L'Italia, la Germania e il Giappone condurranno in comune la guerra imposta loro dagli Stati Uniti d'America e dall'Inghilterra con tutti i mezzi a loro disposizione, fino alla fine vittoriosa.

Articolo 2

L'Italia, la Germania e il Giappone si impegnano a non concludere nè l'armistizio nè la pace sia con gli Stati Uniti d'America che con

503

外務省

REEL No. A-0299

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

l'Inghilterra senza piena reciproca intesa.

Articolo 3

L'Italia, la Germania e il Giappone anche dopo la fine vittoriosa della guerra collaboreranno strettissimamente assieme, nel senso del Patto tripartito da loro stipulato il 27 settembre 1940, allo scopo di raggiungere un giusto ordine nuovo.

Articolo 4

Il presente Accordo entra in vigore immediatamente all'atto della sua firma e resterà in vigore per tutta la durata del Patto tripartito concluso il 27 settembre 1940.

Le Alte Parti Contraenti si metteranno d'accordo al momento opportuno, prima della scadenza di detto termine, per stabilire le ulteriori modalità della loro collaborazione prevista nell'art. 3 del presente Accordo.

In fede di che i sottoscritti, debitamente autorizzati dai loro Governi, hanno firmato il presente Accordo e vi hanno apposto i loro sigilli.

Fatto in triplice esemplare in lingua italiana, tedesca e giapponese a Berlino, l'11 dicembre 1941, XX° dell'Era Fascista, corrispondente all'11° giorno del 12° mese del 16° anno dell'Era Syōwa.

Ōshima (L.S.)
Joachim v. Ribbentrop (L.S.)
Dino Alfieri (L.S.)

REEL No. A-0299

獨伊トノ敵極ト共ニ重要ナル對外措置ハ泰國進駐ニ關スル交渉ナリ
政府ハ日本交渉決裂不可避ノ情勢トナルヤ對米英戰爭遂行上泰國ヲ
軍事的經濟的ニ確保スルコト絕對條件ナルヲ顧リ對泰施策ニ關シ後
ヲ政府大本營聯絡會議ニ於テ軍事外交ノ一致セル方針及措置ヲ決定
シ之ヲ在泰坪上大使ニ指示シ置キタリ即進駐前ノ交渉要領トシテハ
速ヤカニ進駐直前ニ於ケル外交交渉開始日時（X日前日午後六時以降ト豫
定ス）ハ中央ヨリ坪上大使ニ指示シ其決定時期（X-1日午後六時以
後X日午前零時以前トス）ハ陸軍最高指揮官ヨリ坪上大使ニ通報
スル所ニ據ル
右通報ハX-1日午後六時前ニ行フニ努ム右時期迄通報ナキ場合ハ通
報アル迄交渉ヲ差控フルモノトス

ヲ決定シアリ
依テ政府ハ坪上大使ニ對シ開戰前日タル七日午前六時「ビダン」前
相ト面會ノ上我方要求スル泰軍ノ泰國通過許可、右通過ノ爲ニ必要
ナル諸設ノ便宜供與及日泰軍隊間突發避措置ヲ當時直行方ヲ申入ル
ル樣訓令セル處「ビ」首相ハ六月朝以來東部國境方面風雲ニ鑑キ不
在ニテ指定時刻ニ申入ヲ行フ能ハス依テ「バンコック」ニ殘留セル
泰政府幹部ト折衝セルモ決定權ヲ有セスト稱シテ埒明カス此間ニ
泰軍ハ泰側ノ事前ノ同意ヲ待タス行動開始ノ已ムヲ得サニ至レリ、「
ビ」首相ハ八日午前七時半ニ至リ漸ク歸來セルヲ以テ坪上大使ハ八
日午前零時以降種々會談方手ヲ盡クシタルモ強シタル泰軍ハ既定作戰
計畫遂行ノ已ムヲ得サニ立至リ行動ヲ開始セル旨ヲ通報シ我要求ヲ拒

REEL No. A-0299
0576
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

示セル題目相ハ之ヲ廟議ニ同日午前十時半東郷通過ニ開ス
ル日泰協定署名調印セラレタルカ、其後平義富ノ外交的努力ヲ尚ケ
タル結果右ハ我統帥ノ要求ト相俟ツテ遂ニ「ビ」首相ヲシテ日泰攻
撃ノ必然性ヲ認識セシムルト共ニ米英トノ融和ヲ決意セシムルニ至
リ十一日政府同盟協議ノ結果ノ通ト略ナリ泰國ハ第三番目ト共ニ運命ヲ共
ニスルコトトナリ南方經略ノ基礎茲ニ鞏固ナラシムベシ

一、日本國「タイ」國間同盟條約

昭和十六年十二月十一日「バンコック」ニ於テ署名
同　年同月同日　効力發生
同年十二月二十七日(十二月二十九日枢密院可決)公布

駐箚特命全權大使　東條英機
駐箚大使　大島陸郎
海軍大臣　嶋田繁太郎
外務大臣　東郷茂徳

御名御璽

昭和十六年十二月二十七日

内閣總理大臣兼
陸軍大臣　東條英機
海軍大臣　嶋田繁太郎
外務大臣　東郷茂徳

REEL No. A-0299
0577
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

日本國「タイ」國間同盟條約

大日本帝國政府及「タイ」王國政府ハ東亞ニ於ケル新秩序ノ建設カ東亞興隆ノ唯一ノ方途ニシテ且世界平和ノ恢復及增進ノ根柢要件タルコトヲ確信シ之カ障碍ト爲レル一切ノ關係ヲ變革根絶スルノ極手不動ノ決意ヲ以テ左ノ通協定セリ

第一條

日本國及「タイ」國ハ相互ノ獨立及主權ノ尊重ノ基礎ニ於テ南亞諸國ニ同盟ヲ敷衍ス

第二條

日本國又ハ「タイ」國ト一又ハ二以上ノ第三國トノ間ニ武力紛爭竟生スルトキハ「タイ」國又ハ日本國ハ直ニ其ノ同盟國トシテ他方ノ

(日本標準規格B5)

國ニ加盟シ有ラユル政治的、經濟的及軍事的方法ニ依リ之ヲ支援スヘシ

第三條

第二條ノ實施細目ハ日本國及「タイ」國ノ權限アル官憲間ニ協議決定セラルヘシ

第四條

日本國及「タイ」國ハ共同シテ遂行セラルル戰爭ノ場合ニ於テハ相互ノ完全ナル了解ニ依ルニ非サレハ休戰又ハ講和ヲ爲ササルヘキコトヲ約ス

第五條

本條約ハ署名ト同時ニ實施セラルヘク且十年間有效トス締約國ハ右期間滿了前適當ナル時期ニ於テ本條約ノ更新ニ關シ協議スヘシ

(日本標準規格B5)

REEL No. A-0299

0578

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

512

右殿様トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本條約ニ署名調印セリ

昭和十六年十二月二十一日即チ御歴二千四百八十四年十二月二十一日「バンコック」ニ於テ本書二通ヲ作成ス

駐泰金權大使　坪上貞二（印）

暹羅大臣兼外務大臣　ピー、ピブン、ソングラム（印）

516

REEL No. A-0299

0579

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

573

PACTE D'ALLIANCE ENTRE LE JAPON ET LA THAÏLANDE

Le Gouvernement Impérial du Japon et le Gouvernement Royal de la Thaïlande, fermement convaincus que l'établissement du nouvel ordre dans l'Asie orientale est le seul moyen de réaliser la prospérité dans cette sphère et la condition indispensable au redressement et au renforcement de la paix mondiale, et animés de la volonté ferme et irréductible d'éliminer à fond toutes les mauvaises influences faisant obstacle à ce but, sont convenus des articles suivants:

Article 1.

Une alliance est établie par le Japon et la Thaïlande entre eux sur la base du respect mutual de l'indépendance et de la souveraineté.

Article 2.

Au cas où le Japon ou la Thaïlande se trouvera dans le conflit armé vis-à-vis d'une ou de plusieurs tierces Puissances, la Thaïlande

外務省

574

Thaïlande ou le Japon se rangera immédiatement du côté de l'autre comme son allie et lui prêtera l'aide avec tous ses moyens politique, économique et militaire.

Article 3.

Les details relatifs à l'exécution de l'article 2 seront déterminés, d'un commun accord, entre les autorites compétentes du Japon et de la Thaïlande.

Article 4.

Le Japon et la Thaïlande, en cas de guerre poursuivie en commun, s'engagent à ne conclure ni l'armistice ni la paix que par le commun accord complet.

Article 5.

Le présent Pacte entrera en vigueur dès sa signature. Il aura une durée de dix ans. Les deux Parties se consulteront au sujet du

外務省

REEL No. A-0299

renouvellement du présent Pacte au moment convenable avant l'expiration de ladite durée.

En foi de quoi, les soussignés, dûment autorisés à cet effet par leurs Gouvernements respectifs, ont signé le présent Pacte et y ont apposé leurs cachets.

Fait en double exemplaire, à Bangkok, le vingt-et-unième jour du douzième mois de la seizième année de Syōwa, correspondant au vingt-et-unième jour du douzième mois de la deux mille quatre cent quatre-vingt-quatrième année de l'ère bouddhique.

L'Ambassadeur Extraordinaire et Plénipotentiaire du Japon.

TEIJI TSUBOKAMI (L.S.)

Le président du Conseil des Ministres et Ministre des Affaires Etrangères de la Thaïlande.

P. PIBULASONGGRAM (L.S.)

515

外務省
(日本語要旨書)

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/
REEL No. A-0299

英米大使ノ心境

後記

「グルウ」米國大使ハ六月二十五日横濱發奉天丸ニテ歸國ノ
途「クレイギイ」英國大使トハ開戰後モ間々折衝ノ機會アリタル處
日米交渉ニ關スル南大使ノ心境ハ概ネ左記ノ如クナルヤニ認メラル

米國大使

十二月中旬見舞旁々「グルッ」大使ヲ往訪セル際同大使ノ語レル
所概略左ノ通

日米關係ハ不幸破綻ノ悲運ニ際會セルカ自分ハ兩國關係ノ平和的
調整ノ爲ニ最大ノ努力ヲ傾注シ來レル次第ニシテ事態ハ自分ノ微
力ヲ以テシテハ到底處理シ得サリシ（events were too powerful
for me）ものなりと言フヘシ自分ハ貴國ニ九年ノ長キニ亘

外務省

（日本標準規格B5）

リ在勤シ此間貴國官民ヨリ幾多ノ殊遇ヲ辱クシタルカ事茲ニ至リ
タル今日ニ於テモ自分トシテハ貴國ニ付テハ唯々愉快ナル記憶ト
印象ノミヲ有スル次第ナリ

尚去ル八日早朝ノ東郷外務大臣トノ會見ニ關シテハ東郷大臣ノ御
話ヲ畏後ニ興起シテ私ニ思ヒ當ル所少カラス同大臣カ貴外ニ託サ
レタル眞意モ充分ニ諒解シ得タルカ其際同大臣ノ示サレタル御好
意ハ自分ニ於テモ深ク多トシ銘記シ居レリ右ノ次第同大臣ニ傳達
シ自分ヨリノ謝意ヲ表シ置カレ度シ云々

英國大使

年改マリテ後某日廣田ヲ以テ「クレイギイ」大使ヲ往訪セル際同
大使ハ益々ヘナケレハ日米交渉ニ關シ著手ノ事ヲ敢シ度シト述ヘ

外務省

（日本標準規格B5）

REEL No. A-0299

0582

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

自分ハ離國後政府ニ當地在任中ノ報告ヲ提出スル筈ナル處（帰途中ナリシモノノ如シ）來栖大使ノ特派ニ付テハ米國ニ於テハ右ヲ以テ日本政府ノ誤電工作ナリシカ如ク宣傳シ居リ英國政府モ亦多分同様ニ考ヘ居ルモノト思ハル自分ハ日本政府カ誠意ヲ以テ交渉妥結ニ當リ居リタルモノニシテ來栖大使歸京ヲ學ロ其證左ナリト了解シ居ルモ此點ニ關シ本國政府ノ疑惑ヲ解クコトハ先ツ到底不可能ナルヘシト信ヘルヽ以テ然ル可ク當時ノ事情ヲ説明シ米側ノ誤意ニ基ク盧溝ノ宣傳ニ乘セラレサル様注意シ置ケリ

次テ同大使ハ八日朝東郷大臣ニ會見セル際ハ開戰後ナリシニ拘ラス何等右ヲ承知セスシテ參上シタルハ我年ヲ眞ニ遵守ノ限リニテ自分ハ嘗カシ complete fool ト見エタルコトナレハ、同日ノ會

見ニ於テ東郷大臣ヨリ日英既ニ交戰狀態ニ在リシ事實ヲ卒直ニ打明ケラレサリシハ遺憾ニ思ヘサルニアラスト述ヘタルニ付同日ノ同大使ノ立場ニハ同國コソスレ他ニ鬼角ノ氣持ハ持チ居ラサリシコト故ニ開戰ノ事實ハ貴大使御來訪同日早朝臨時放送アリタル程ニテ特ニ秘匿セルモノニアラス實及ノ必要ヲ認メサリシノミナリト答ヘタルニ同大使ハ之ハ貴下限リノ話ナリト前置シテ自分ハ貴國政府公表ノ交渉經緯ヲ顧ミテ初メテ日米交渉ノ全貌ヲ了解セル次第ナルカ十一月二十六日ノ米國案ナルモノハ日本ノ國民感情ヲ無視ナルコト甚シキモノニテ右案ヲ一見シテ交渉決裂ノ已ムヲ得サリシコトヲ具ニ理解スルト共ニ米國政府カ斯カル態度ヲ以テ交渉シ居リタル事實ヲ知リ驚ル意外ニ感シタリ今更惜シミテ

REEL No. A-0299
0583
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

モ余リアル鎖恨事ハ英國政府カ周圍打開ノ為メ當時今少シク領土的ニ努力セサリシコトナリト述懐セリ

交渉經過中我方ハ英國ヲ利用シテ米國ノ反省ヲ促サント欲シ東郷大臣ヲ始次ニ亘リ之ヲ試ミラレタル他吉田（茂）大使、重光大使等モ盛ニ努力セル經緯アリ、殊ニ終ニ於テ幾々大臣ノ命ヲ承ケ同大使ヲ親授ニ赴ケル次第ニテ同大使ハ熱意タ右ヲ同盟セルモノト拙察セラル

加藤記

日米交渉追記

「惟フニ「ルーズベルト」ハ米國カ未曾有ノ經濟混亂ニ遭遇セル際其渦中ニ於テ大統領ニ就任シ爾後「ニウディール」政策ヲ提ケテ經濟再建ニ努力セルモ同政策ハ幾多ノ矛盾ヲ包藏シ爲ニ其ノ破綻ハ早晩不可避ノ情勢ニ見受ケラレタリ

「ルーズベルト」ノ第二期大統領當選後右ノ形勢ハ頓ニ顯著トナリタルカ「ルーズベルト」ハ當時漸ク不安猜疑シツツアリタル歐洲政局ニ着目シ國民ノ視聽ヲ内憂ヨリ外患ニ轉セシムルト共ニ（一九三七年十月ノ「シカゴ」隔離演説ノ如シ）兩洋艦隊建造其他軍備擴張ニ着手シ以テ國内經濟ノ行詰リヲ突破打開セント試ミタリ

REEL No. A-0299
0584
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

而シテ其後英獨ノ對立抗爭益々深刻トナリ遂ニ第二次歐洲戰爭ノ勃發トナルヤ「ルーズベルト」ハ「ナチス」ノ脅威ヲ强調シテ英國援助ノ必要ヲ力說シ遂ニハ『戰爭ノ一歩手前迄』ヲ標榜シテ極力援英方策ヲ强行スルノ態度ニ出テタリ、既ニシテ佛國潰エ英國ハ「ダンケルク」ニ敗退シ所謂「バットル、オブ、ブリテン」ニ苦戰シ專ラ米國ノ支援ニ望ヲ囑スル悲境ニ在リ他方帝國ハ獨伊ト三國同盟ヲ締結シ次イテ蘇聯トノ間ニ中立條約ヲ成立セシメ南進ノ態勢ヲ整フルニ至レルカ「ルーズベルト」ハ此間ニ處シテ一面援英ニ邁進スルト共ニ他面アワヨクハ外交交渉ニ依リ帝國ヲ三國條約ヨリ脫落セシメ其南進ヲ阻止シテ自國ノ背後ヲ安固ナラシメ以テ太西洋ニ專アルノ日ニ備ヘント企圖セリ之即「ルーズベルト」

(日本標準規格B5)

カ日米交渉ニ乘出シタル所以ナリ

(日本標準規格B5)

REEL No. A-0299

0585

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

三、「ルーズベルト」ノ眞意右ノ如シ其ノ日米交渉ニ於テ阻ヒタル重點ハ支那問題ニモ強固問題ニモアラスシテ當初ヨリ終始一貫シテ帝國ノ三國同盟離脱ニ在リタル次第ナリ故ニ米國政府ハ帝國カ到底三國條約ノ廢棄ニ應スルノ意思ナキヲ看取スルヤ十一月末ニ至リ八箇月ニ亘ル交渉ノ經緯ヲ全然無視シ卒然トシテ高壓的ナル新提案ヲ帝國政府ニ突キ付ケタリ蓋シ當時米國政府ハ帝國ノ國力ヲ極メテ低ク評價シ四年餘ノ支那事變ニ疲弊セル帝國カ強大ナル米國及其與國ヲ敵トシテ一戰ヲ試ミルカ如キハ自殺ニ等シク到底アリ得サルモノト妄斷シ居リタルコト明ニシテ米英其他關係國一致ノ强壓ヲ以テ臨メハ帝國ノ腰ハ折ニシテ薄ケ東條內閣ハ「腰」カ「退陣」カノ二途アルノミト確信シ居リタルモノノ如シ

四、即「ルーズベルト」ハ國內經濟政策ノ破綻ヲ國際非常時ニ轉ス」ノ青寫眞ニ藉口セル軍備擴張ニ依リテ救濟セントスル結果歐洲（對獨）戰爭ニ早晩介入ノ已ムナキ情勢ニ立至リタルカ參戰ノ準備未タ完成セス輿論モ亦統一セラレ居ラレサリシ事實ニ鑑ミ一面參戰態勢確立ニ腐心シツツ他面日米交渉ニ依リ帝國ヲ極給セシト試ミタルモ帝國ヲ餘リニ輕視セル爲メ却テ其ノ極力回避セント努力セル兩洋戰爭ニ突入スルノ結果ヲ招來セル次第ナリ

五、本交渉ヲ通シ「ルーズベルト」ノ性格カ當時當所ニ於ケル與論ヲ壓倒シ居ルハ興味アリ「ルーズベルト」ハ個人的名譽感頗ル强キ虚榮的政治家ニシテ常ニ大向フノ人氣ヲ迎フルニ汲々タル人氣役者ナルカ本交渉中例ヘハ日支和平問題ニ關シテハ當初ヨリ「ルーズ

REEL No. A-0299
0586
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ベルト」個人カ仲介者トナル建前トナリ居リ米國政府カ日支ノ中間ニ立ツコトニハナリ居ラス

抑々本交渉ハ華府ニ於ケル野村大使ノ努力ハ之ヲ別トシ其ノ發端ハ松岡外相カ訪歐ノ途次獨聯邦在中同地駐在ノ「スタインハルト」米國大使ヲ通シテ「ルーズベルト」ニ對シ『米國カ支那ヨリ手ヲ引クニ於テハ日支和平可能トナルヘク日支和平成立セハ日米關係自ラ改善セラルヘシ』トノ趣旨ヲ進言セシメ「ルーズベルト」ノ政治的投機心ヲ刺戟セルコトニアリ現ニ「シベリア」經由歸朝ノ途中「スタインハルト」ハ松岡外相ニ對シ「ルーズベルト」ヨリノ返電ニ依レハ貴下ノ提案ハ發展ヲ示ス模樣ナリトノ趣旨ヲ打電越シタルカ米側第一次提案ハ同外相ノ東京到着ト前後シ提出セラ

レタル次第ナリ

REEL No. A-0299
0587
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

四月ヨリ十二月ニ至ル八箇月ノ交渉ニハ三箇ノ段階アリ第一期ハ七月中旬ノ政變ヲ以テ又第二期ハ十月中旬ノ政變ヲ以テ終リ第三期ハ日米開戦ヲ以テ終結ス第一期ハ松岡外相在任ノ時代ニ當ル處同外相ハ交渉進捗スルニ從ヒ「ルーズベルト」ノ底意ヲ明瞭ニ看國ノ三國條約離脱ニ在ルヲ看破シ交渉繼續ヲ不可トスルノ立場ヲ取リタルカ政變ニ依リ下野シタリ第二期ハ豊田外相ノ時代ニ當リ帝國ノ佛印進駐ニ伴フ米國ノ對日資産凍結ノ後ヲ承ケ交渉妥結ニ努メタルモ成ラス同シク政變ニ遭遇辭職セリ第三期ハ東郷外相ノ時代ニシテ即本卷ノ記述スル時期ニ該當スル處今期中特ニ來栖大使特派後ニ於テ米國政府ノ主張ハ極メテ明瞭トナリ其意圖スル所頗ル歴然タルニ至リ妥協ノ餘地皆無ナルコト判明シ遂ニ開戦ニ至

(日本標準規格B5)

レル次第ナリ

要之世界政策ノ觀點ヨリ觀察スレハ日米兩國ノ衝突ハ當然不可避ノ情勢ニアリタルモノナリ

加瀬記

(日本標準規格B5)

REEL No. A-0299

0588

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/